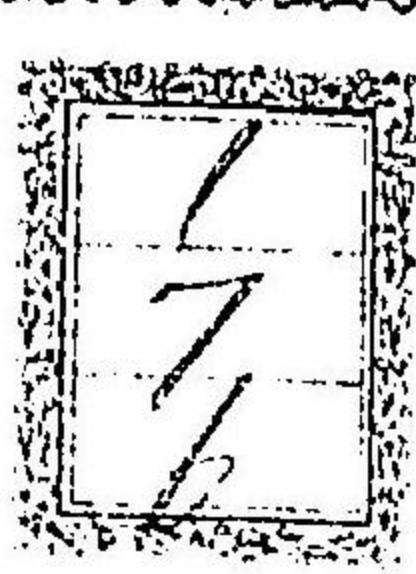


刑法義解

太田聿郎註解

二

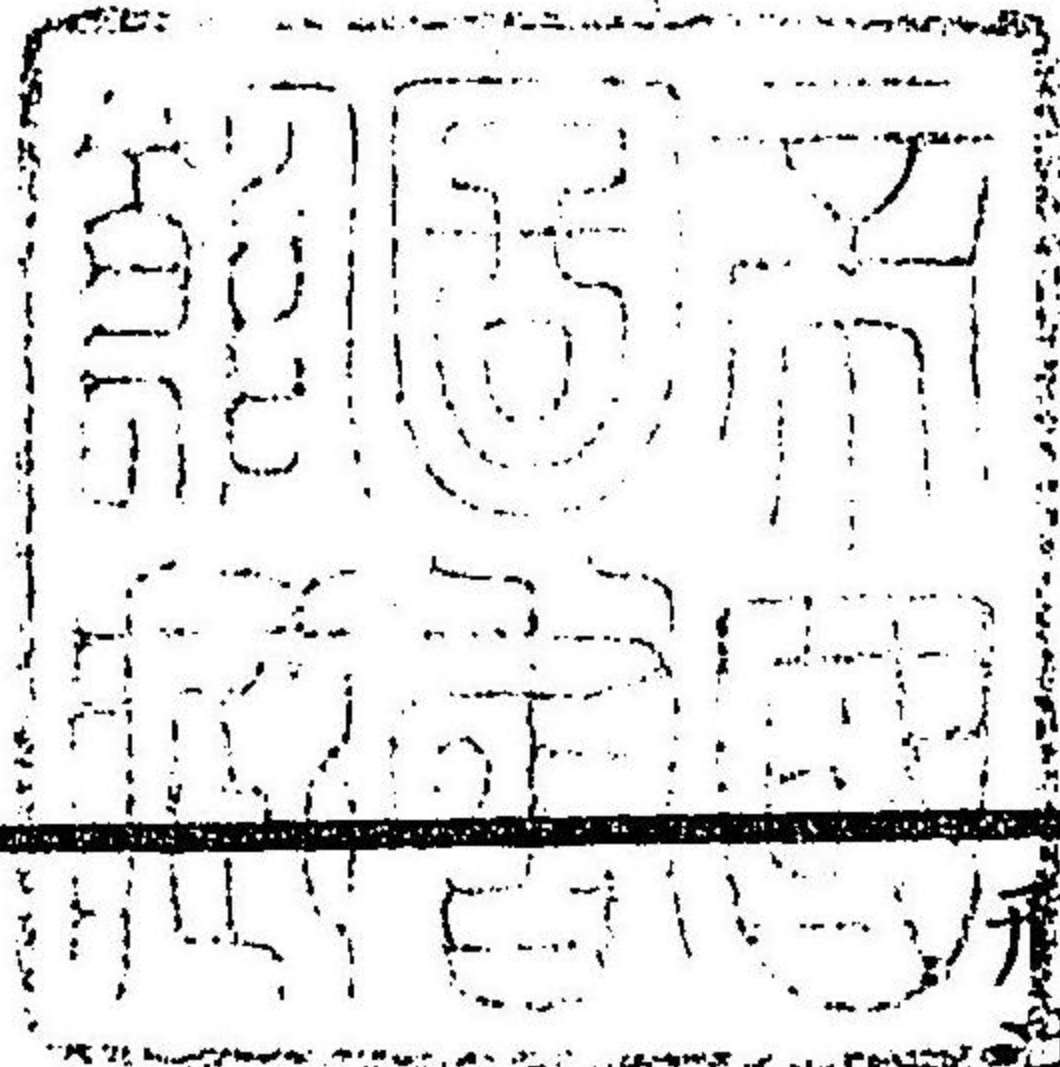
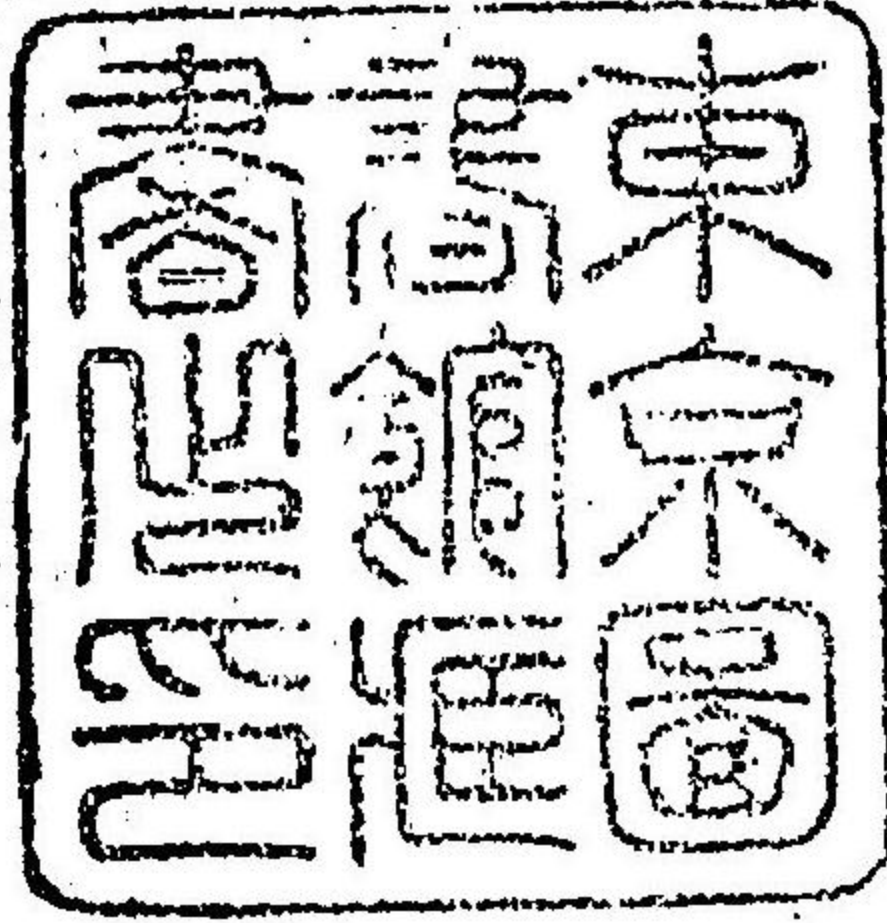


卷之二 目表

第三章	加減例	一葉
第四章	不論罪及七減輕	十一葉
第一節	不論罪及七減輕	十三葉
第二節	自首減輕	廿九葉
第三節	酌量減輕	三十四葉
第五章	再犯加重	三十七葉
第六章	加減順序	四十九葉
第七章	數罪俱發	五三葉
第八章	數人共犯	六三葉
第一節	正犯	同前
第二節	從犯	六十葉
第九章	未遂犯罪	七十葉
第十章	親屬例	八十四葉

東京圖書館

和書門	類	一函	二架	六號	七冊
-----	---	----	----	----	----



刑法義解卷之二

第三章 加減例

〔註〕加減例トハ各本條ニ定ムル所ノ本刑ヲ加重シ
 又ハ減輕スルノ方法ヲ云フ夫レ罪惡ノ輕重ニ
 因リ之ニ科スル所ノ刑罰ハ第二編以下ニ之ヲ
 定ム然レモ法律ニ於テ犯罪ノ情狀ニ因リ之ヲ
 加減スルヲ要スル場合許多アリ例ヘハ再犯

森 權六

校正

山住才三

太田聿郎

註解

若クハ身分其他ノ場合ニ在テ本刑ニ一等或ハ
數等ヲ加重スルヲ要シ又タ宥恕自首酌量從
犯未遂犯其他ノ場合ニ在テ本刑ニ一等或ハ數
等ヲ減輕スルヲ要ス此加減ヲナスニハ一定
ノ方法ナカル可カラス是レ本章ノ設ケアル所
以ナリ

第六十六條

法律ニ於テ刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ後ノ數條ニ記載
シタル例ニ照シテ加減ス但加ヘテ死刑ニ入ルヲ得
ス

註凡ソ法律上本刑ニ一等或ハ數等ヲ加重シ又ハ減輕
スヘキ時ハ次條以下ニ定メタル等級ニ從テ之ヲ加
減ス然レモ死刑ハ法章ニ明文アル者ノ外ハ本刑ヲ
加重シテ死刑ニ入ルヘキ時ト雖モ之ヲ無期徒刑
ニ止メテ死刑ニ處スルヲ得サル者トス是レ大ニ
人情ニ適シ法理ニ合フ者ト云フ可シ何トナレハ法
律上死刑ニ次クニ無期徒刑ヲ以テスト雖モ死刑
ハ極重ノ刑ニシテ且ツ一タヒ之ヲ執行スルハ回
復ス可ラサル者ナリ故ニ之ヲ無期徒刑ニ比スレ
ハ其輕重ノアル所實ニ霄壤モ遠ナラス然ルニ加重

ノ情狀ニ因リ無期徒刑以下ノ者ヲ加ヘテ死刑ニ入ル、如キハ甚ク苛酷ニ涉リ情理ニ於テ決シテ為ス可カラサル事ナルヲ以テナリ

第六十七條

重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス

- 一 死刑
- 二 無期徒刑
- 三 有期徒刑
- 四 重懲役
- 五 輕懲役

第六十八條

國事ニ關スル重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス

- 一 死刑
- 二 無期徒刑
- 三 有期徒刑
- 四 重禁獄
- 五 輕禁獄

註此兩條ハ重罪ノ刑ヲ加減スル順序ヲ示ス者ニシテ

重罪ノ刑ヲ大別シテ二種トシ第六十七條ハ常事重犯ノ刑ヲ加減スル等級ヲ定メ第六十八條ハ國事重

犯ノ刑ヲ加減スル等級ヲ定ム即チ各死刑以下五等ノ區別ニ從ヒ順次之ヲ加減スル者トス

第六十九條

輕懲後ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト為ス
輕禁獄ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト為ス

〔註〕本條ハ重罪ノ刑ヲ減輕シテ輕罪ノ刑ニ降ルノ例ヲ示ス夫レ重罪ノ刑中輕懲後輕禁獄ハ最下級ノ刑ト

レハ此刑ニ該ル者減輕ス可キ時ハ輕罪ノ刑ニ降サ

、ルヲ得ス故ニ常事重犯ノ最下級ノ刑即チ輕懲後ヲ減輕スルキハ重禁錮ニ降シ國事重犯ノ最下級ノ刑即チ輕禁獄ヲ減輕スルキハ輕禁錮ニ降ス可キ者トス蓋シ常事輕犯ノ刑ニハ重禁錮ヲ以テシ國事輕犯ノ刑ニハ輕禁錮ヲ以テスルハ前已ニ詳說セルヲ以テ彼此參着スヘシ
而シテ其刑期ハ二年以上五年以下ニ處スルヲ以テ一等ト為ス若シ二等或ハ三等ヲ減スル時ハ第七十條ノ例ニ照シ二年以上五年以下ノ長短期ノ四分ノ一ヲ減スルヲ以テ法トス

又其刑期ヲ二年以上五年以下ト定ムル所以ハ法律上禁錮ノ刑期ハ十一日以上五年以下ナリ然ルニ今重罪ノ刑ヲ減輕シテ輕罪ノ刑ニ降スニ直チニ其短期十一日ニ降スキハ却テ寬ニ失スルノ恐アリ故ニ一般輕罪犯ニ適用スル刑中最モ重キ禁錮ノ刑期即チ二年以上五年以下ニ降スヲ以テ一等ト為ス者ナリ

第七十條

禁錮罰金ニ該ル者減輕ス可キ時ハ各本條ニ記載シタル刑期金額ノ四分ノ一ヲ減スルヲ以テ一等ト為シ其

加重ス可キ時ハ亦四分ノ一ヲ加フルヲ以テ一等ト為ス
輕罪ノ刑ハ加ヘテ重罪ニ入ルヲ得ス但禁錮ハ加ヘテ七年ニ至ルヲ得

註本條ハ輕罪ノ刑ヲ加減スル方法ヲ示ス抑モ輕罪ノ主刑ハ禁錮ト罰金ノニアルノミ而シテ此二刑ハ固ヨリ其輕重ナキ者ニシテ且ツ其刑期金額モ各本條ニ於テ之ヲ定ムル者ナレハ其長短ノ期多寡ノ數同シカラス故ニ重罪ノ刑ノ如ク加減ニ因テ其刑名ヲ變更スルヲ得ス又刑期ノ長短罰金ノ多寡ヲ一定

シ其階級ヲ定ムルヲ得ス是ヲ以テ輕罪ノ刑ヲ加減スルニハ各本條ニ記載シタル禁錮ノ刑期罰金ノ金額ノ四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等ト為ス而シテ加重スルハ禁錮ハ七年ニ至ルヲ得減輕スルハ禁錮ヲ拘留ニ罰金ヲ科料ニ降スヲ得ル者トス例ヘハ今茲ニ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ該ル者アランニ本刑ニ一等ヲ減スルハ即チ二月ノ四分ノ一ト四年ノ四分ノ一トヲ減シ一月十五日以上三年以下トナル二等ヲ減スル時ハ一月以上二年以下トナリ三等ヲ減スル時ハ十五日以上一年以下ト

ナリ四等ヲ減スル時ハ減盡シタルヲ以テ降シテ拘留ノ刑ニ處スル如キ是ナリ又本刑ニ一等ヲ加フル時ハ則チ二月ノ四分ノ一ト四年ノ四分ノ一トヲ加ヘ二月十五日以上五年以下トナリ二等ヲ加フルハ三月以上六年以下トナリ三等ヲ加フル時ハ三月十五日以上七年以下トナリ四等ヲ加フル時ハ四月以上七年以下トナル是レ短期ハ四等ヲ加フルヲ得ルモ長期ハ四等ヲ加ヘテ八年ト為スヲ得サルヲ以テ七年ニ止ル如キ是ナリ
罰金モ前例ト同シク四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一

等ト為シ減盡シタル時ハ科料ニ處シ加重スル時ハ何等ヲ加フルモ其金額ニ制限ナシ是レ蓋シ罰金ハ二圓以上トノミニテ其極度ヲ設ケサルノ法ナルヲ以テナリ

輕罪ノ刑ハ加ヘテ重罪ニ入ルヲ得サル所以ハ元來加重スル時ハ違警罪ノ刑ヲ加ヘテ輕罪ニ入レ輕罪ノ刑ヲ加ヘテ重罪ニ入レ無期徒流刑ヲ加ヘテ死刑ニ入ルヲ許サ、ルハ此レ法律ノ原則トスレハナリ然レモ減輕スル時ハ死刑ヲ無期徒流刑以下ニ降シ重罪ノ刑ヲ輕罪ノ刑ニ降シ輕罪ノ刑ヲ違警罪

ノ刑ニ降スヲ得ヘキ者トス是レ加重スル時ハ勉テ苛酷ニ渉ルノ弊ヲ避ケ減輕スル時ハ成ル可ク之ヲ輕カラシメンヲ欲スルノ精神ナリ
又加ヘテ七年ニ至ルコトヲ得ル所以ハ輕罪ノ刑ヲ加ヘテ重罪ニ入ル、ヲ得スト雖モ法律上禁錮ノ長期ハ五年ニ止ルヲ以テ之ヲ加重シテ五年以上ニ至ルヲ得ルヲ云フ然レモ之カ制限ヲ設ケサレハ數等加重シテ殆ント重罪ノ刑ニ處スル者ト異ナラサルニ至ラン故ニ加重スルモ七年以上ニ過クルヲ得サル者トス

第七十一條

禁錮ヲ減盡シタル時ハ拘留ニ處シ罰金ヲ減盡シタル時ハ科料ニ處ス禁錮罰金ヲ減シテ其短期十日以下寡數一圓九十五錢以下ニ及フ時ハ亦拘留科料ニ處スルヲ得

〔註〕本條ハ輕罪ノ刑即チ禁錮罰金ヲ減輕シテ違警罪ノ刑即チ拘留科料ニ降ス例ヲ示ス此場合ヲ二個ニ分ツ

其一禁錮罰金ヲ減盡シタル時即チ前條ノ例ニ依リ其刑期金額ノ四分ノ一ヲ減スルヲ以テ一等ト

為シ四等ヲ減スル時ハ毎ニ減盡スルヲ云フ此場合ニ於テハ禁錮ニ該ル者ハ降シテ拘留ニ處シ罰金ニ該ル者ハ降シテ科料ニ處スルヲ法トス

其二禁錮罰金ヲ輕減シテ其短期十日以下寡數一圓九十五錢以下ニ及フ時即チ前條ノ例ニ依リ刑期金額四分ノ一ヲ一等ト為シ一等或ハ數等ヲ減シテ其長期ハ尚ホ禁錮ノ範圍内其多數ハ尚ホ罰金ノ範圍内ニ在リト雖モ其短期ハ拘留ノ範圍内其寡數ハ科料ノ範圍内ニ跨ル時例ヘハ

一月以上二月以下ノ重禁錮ニ該ル者アランニ
 三等ヲ減スル時ハ七日以上十五日以下トナル
 カ如キ是ナリ此場合ニ於テハ裁判官其情狀ノ
 輕重ヲ量リ禁錮罰金ノ範圍内ヲ以テ輕罪ノ刑
 ニ處シ或ハ拘留料料ノ範圍内ヲ以テ違警罪ノ
 刑ニ處スルヲ得ヘキ者トス

第七十二條

拘留料料ニ該ル者加減ス可キ時ハ禁錮罰金ノ例ニ照
 シ其四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等ト為ス
 違警罪ノ刑ハ加ヘテ輕罪ニ入ルヲ得ス但拘留ハ加

ヘテ十二日ニ至ルヲ得減シテ一日以下ニ降ス
 得ス料料ハ加ヘテ二圓四十錢ニ至ルヲ得減シテ五
 錢以下ニ降スヲ得ス

註本條ハ違警罪ノ刑ノ加減例ヲ示ス者ニシテ即チ拘

留料料ヲ加重シ又ハ減輕スルノ法ハ禁錮罰金ノ加
 減法ト同シク各本條ニ記載シタル刑期金額ノ四分
 ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等ト為ス

違警罪ノ刑ハ加ヘテ輕罪ニ入ルヲ得サル所以ハ
 輕罪ノ刑ヲ加ヘテ重罪ニ入ルヲ得サルノ主義ト
 同一ナリトス

拘留ヲ加ヘテ十二日ニ至ルヲ得ル所以ハ元來拘留ヲ加ヘテ禁錮ニ入ルヲ得スト雖法律上拘留ノ刑ノ長期ハ十日ニ止マルヲ以テ之ヲ加重スル時ハ十日以上ニ及サ、ルヲ得ス然レ凡之レカ制限ヲ設ケサレハ殆ト禁錮ノ刑ト異ナラサルニ至ルヲ以テ十二日マテ加重スルヲ得ト定ム科料ヲ加ヘテニ圓四十錢ニ至ルヲ得ルモ亦タ同一ノ主義ニシテ輕罪ニ罰金アルヲ以テ之ヲ制限スル者ナリ又タ拘留ヲ減シテ一日以下ニ降スヲ得サル所以ハ拘留ノ短期ハ一日ナルヲ以テ減等シテ其短期一

日以下ニ降ルカ或ハ四等ヲ減シテ其刑期ノ盡キタル時ト雖凡刑ノ輕減ニ因リ有罪者ヲ放免スルヲ得ス仍ホ一日ノ拘留ニ處ス科料ヲ減シテ五錢以下ニ降スヲ得サルモ亦タ同一ノ主義ニシテ其寡數五錢以下ニ降ルカ又ハ減盡シタル時ト雖凡仍ホ五錢ノ科料ニ處スル者トス

第七十三條

禁錮拘留ヲ加減スルニ因テ其期限ニ零數ヲ生シ一日ニ滿サル時ハ之ヲ除棄ス

註禁錮拘留ノ加減法ハ共ニ其刑期四分ノ一ヲ加減ス

ルヲ以テ一等ト為スニ因リ其刑期ニ零數ヲ生シ一日ニ滿タサル者多シ例ヘハ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ該ル者アランニ一等ヲ減スル時ハ八日ト六時以上二ヶ月七日ト十二時ト為ル此場合ニ於テハ其零數ヲ除棄シ八日以上二ヶ月七日以下ト計算ス是レ刑期ハ年月若クハ日數ヲ以テ算スルハ法律ノ原則ニシテ時刻ヲ科ス可カラサル者ナレハナリ何トナレハ若シ時刻ヲ科スルキハ實際刑ヲ執行スルニ甚タ煩雜ニシテ不便ヲ生スルヲ以テナリ故ニ其零數ヲ除棄スル者トス

本條罰金科料ヲ加減スルニ因リ零數ヲ生スルヲ言ハサル者ハ罰金科料ハ假令ヒ零數ヲ生スルモ之ヲ徴収スルニ難カラス故ニ其零數モ之ヲ科ス然レ氏釐位ニ止リ毛位ハ除棄スル者トス

第七十四條

附加ノ罰金ハ主刑ニ從テ加減シ其金額ノ四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等ト為ス若シ減盡シタル時ハ止テ主刑ヲ科ス

註本條ハ附加ノ罰金ノ加減法ヲ示ス者ニシテ禁錮ニ

附加スル罰金ハ主刑ト共ニ其金額四分ノ一ヲ加減

スルヲ以テ一等ト為ス故ニ主刑ノ禁錮ヲ一等減ス
 ル時ハ附加ノ罰金モ亦之ニ從ヒ一等ヲ減ス然レ
 氏禁錮罰金共ニ減盡シタルハ主刑ノ禁錮ハ拘留
 ニ降ス^一ヲ得ルモ附加ノ罰金ハ科料ニ降ス^一ヲ得
 ス何トナレハ科料ハ違警罪ノ主刑ニシテ附加ノ罰
 金ニ換^カフヘキ者ニ非サレハナリ若シ附加ノ罰金ヲ
 降シテ科料ニ處スルハ一個ノ罪ニ二個ノ主刑ヲ
 科スル者ニシテ甚タ允當ナラス故ニ止夕主刑ノミ
 ヲ科シ附加ノ罰金ハ消滅シタル者トス

第四章 不論罪及ヒ減輕

註

本章ハ法律上罪トナル可キ所為ヲ犯スト雖正
 他ノ事實アルニ因リ全ク其罪ヲ論セス又ハ其
 刑ヲ輕減スルノ場合ヲ示ス
 凡ソ犯罪アリトシテ人ヲ刑スルニハ其所為道
 徳ニ背戾スルト社會ノ公益ヲ障害スル者ニシ
 テ且ツ法律ニ正條アル者タルヲ要スルハ既
 ニ詳說セル所ナリ然シテ今其所為ハ道德上ノ
 惡、社會上ノ害アリ且ツ法律ニ正條アル者ト雖
 モ他ノ事實ニ因リ之ヲ刑ス可カラサル者アリ
 又直ニ其刑ヲ科ス可カラサル者アリ本章ニ於

テ此場合ヲ三節ニ分ツ

第一不論罪及ヒ宥恕減輕此場合ニ於テハ其所
為法律上ニ於テ罰ス可キ者ト雖_レ在犯人ノ故意
ニ出タルニ非サルカ或ハ是非ヲ辨別スルノ知
覺精神ヲ缺乏スルカ又ハ其知覺ノ完全ナラサ
ルニ因リ之ヲ無罪トシ又ハ宥恕_ニシテ其刑ヲ減
輕スル者ヲ云フ是レ蓋シ法律ニ於テ有罪トシ
テ罰スヘキ者ニハ獨リ其外形ノ害アルノミニテ
ハ其責ヲ負ハシム可カラス必ス三個ノ要件ヲ
具備セサル可カラス其一意思其二辨別其三自

由是レナリ

意思トハ罪ヲ犯スノ意アル者ヲ云ヒ辨別トハ
所為ノ是非ヲ識量スル知覺アルヲ云ヒ自由ト
ハ他ノ制_ニ受ケス其心ニ於テ善ト惡トヲ識
別スルノ氣力アルヲ云フ此三個ノ要件ノ一ヲ
欠クハ法律上罪ト為ル可キ所業アルモ之ヲ
罰ス可カラス故ニ無意ニ出タル所為ハ仮令ヒ
辨別アリ且自由アルモ之ヲ罰ス可カラス即チ
第七十七條ノ場合是ナリ又タ_チ痴_チ呆_{ボウ}瘋_{マク}癲_{テン}等ニ因
リ其知覺ノ缺失シ及ヒ幼者ノ無知ニシテ是非

ヲ辨別セサル者ハ仮令ヒ意思アリ且ツ自由アルモ之ヲ罰ス可カラズ即チ第七十八條以下ノ場合はレナリ又他ヨリ強迫制厯セラレ其自由ヲ失シ已ムヲ得ス犯シタル罪ハ仮令ヒ意思アリ且ツ辨別アルモ之ヲ罰ス可カラズ即チ第七十五條第七十六條ノ場合はナリ以上説ク所ハ不論罪及ヒ宥恕減輕ノ基礎ナリトス

第一節 不論罪及ヒ宥恕減輕

第七十五條

抗拒ス可カラサル強制ニ遇ヒ其意ニ非サルノ所爲ハ其罪ヲ論セス

天災又ハ意外ノ變ニ因リ避ク可カラサル危難ニ遇ヒ自己若クハ親屬ノ身體ヲ防衛スルニ出タル所爲亦同シ

註本條ハ罪ト爲ル可キ所業アルモ犯人他ノ強制又ハ危難ニ遇ヒ其自由ヲ得サルニ因リ之ヲ罪トシ論セサルノ場合ヲ示ス

此場合ニ二個ノ別アリ一ハ入爲ニ因ル者即チ第二

項是ナリ一ハ自然ニ因ル者即チ第二項是ナリ
 第一項抗拒ス可ラサル強制ニ遇ヒトハ抵抗止ス
 可カラサル強迫制壓ヲ受クルヲ云フ而シテ強制ニ
 二種アリ一ハ内部ニ係ル者一ハ外部ニ係ル者はレ
 ナリ内部ニ係ル者トハ精神上ニ對スル強制ニシテ
 言語或ハ形容ヲ以テ威迫シ為メニ恐怖シテ其心思
 ノ自由ヲ失却セシムルヲ云フ例ハ甲アリ乙ニ對
 シ今汝チ某ノ事ヲ為サ、レハ直チニ汝ヲ殺害セン
 ト云フヲ以テ乙止ムヲ得ス在ケテ其意ニ從フノ
 類是レナリ外部ニ係ル者トハ身體上ニ對スル強制

ニシテ直チニ腕カヲ以テ強迫シ其身體ノ自由ヲ失
 却セシムルヲ云フ例ハ甲アリ乙ニ對シ丙ヲ銃殺
 スヘシト強テ乙ノ手ヲ取り之ヲ為サシムルヲ以テ
 乙抗拒スルヲ能ハス遂ニ丙ヲ銃殺シタル類是ナリ
 此等ノ場合ニ於テ其勢力抗拒ス可カラサルヲアル
 ヲ必要トス是レ其自由ヲ失却シテ為シタル者ナレ
 ハ之ヲ罪トシ論スルノ限ニアラス
 第二項天災又ハ意外ノ變ニ因リ避ク可カラサル危
 難ニ遇ヒトハ暴風、洪水、地震、火災、破船及ヒ戦争等ノ
 危難ニ遭遇シ自己若クハ親屬ノ生命ヲ保全スル為

メ他人ヲ傷害スルニ非サレハ他ニ避タルノ途ナキ
ニ因リ止ムヲ得スシテ之ヲ為スヲ云フ例ハ洪水
ノ際甲者一片ノ板子ニ乗シテ遁レントスルニ乙者
踵ヒデ來リ之ト共ニセントス其板子ハ二人ヲ助ク
ルニ堪ヘサルヲ以テ甲者覆没セントテ恐レ自己ノ
生命ヲ保全スル為メ乙者ヲ突キ放テ遂ニ溺死セシ
ムルカ如キ類是レナリ此場合ニ於テハ其危難避ク
可カラサルヲアルヲ必要トス是レ亦前項ト同一
ノ主義ニシテ之ヲ罪トシ論スルノ限ニアラス
夫レ人ハ自由ナルニ因リ善ト惡トヲ撰擇スルノ氣

カアル可キ者トス然レ他ノ抵抗ス可カラサル強
制又ハ避ク可カラサル危難ニ遭遇スル片ハ自己ノ
生命ヲ重シ身體ヲ保護スルノ切ナルヨリ其善惡ヲ
擇ンテ之ヲ行フノ自由ヲ失シ復タ法律ヲ顧ミルノ
違ナキニ至ル此レ自然ノ情勢ナリ且ツ人強制危難
ニ遇フモ正理ヲ守テ屈セス或ハ已レヲ棄テ、人ヲ
救フハ固ヨリ美事ナリト雖モ是レ志士仁人ニ非サ
レハ為ス能ハサル所ニシテ一般ノ人民ニ望ム可カ
ラス爰ヲ以テ道德上之ヲ責ムルヲ得ルモ法律上
之ヲ罰ス可カラス此レ本條第一第二兩項ノ其所爲

ヲ罪トシ之ヲ罰セサル所以ナリ
而シテ其強制危難ニ輕重緩急ノ差アレハ其罪ヲ論
セサルト否トハ裁判官ノ判定スル所ニ在リトス故
ニ裁判官タル者ハ其景况情狀ヲ審^シ驗^シ強制危難ノ
度ト犯罪ノ輕重ヲ酌量セサル可カラス

第七十六條

本屬長官ノ命令ニ從ヒ其職務ヲ以テ爲シタル者ハ其
罪ヲ論セス

註 本條ハ罪トナル可キ所業アルモ本屬長官ノ命令ニ
從ヒ事ヲ爲シタル時ハ其罪ヲ論セサル場合ヲ示ス

夫レ本屬長官即チ正當ノ威權ヲ有スル者ノ命令ニ
從フテ事ヲ爲シタル者ハ其所業罪ト爲ル可キト
雖^レ此之ヲ罰セラル、^レナク其責ハ之ヲ命令セル長
官ニ歸ス例ヘハ行刑吏檢察官ノ指揮ニ因リ死刑ヲ
執行シ又巡查豫審判事ノ命令ニ從ヒ人ヲ逮捕シタ
ル後其死刑ニ處ス可カラサルヲ發覺シ又ハ無罪人
ヲ逮捕スルモ此等ノ者ハ罰セラル、^レナキカ如キ
類是ナリ此レ蓋シ其者ハ本屬長官ノ命令ハ必ラス
遵奉セサル可カラサル者ナリ既ニ其命ヲ受ケ之ヲ
爲シタル片ハ之レ其職務ヲ盡シタルト云フヘシ然

ラハ則チ前條ノ強制又ハ危難ニ遇ヒ自由ヲ得サル者ト同シカラスト雖モ亦タ自由ヲ得サル者ト看做スヘシ故ニ其罪ヲ論セサルナリ
而シテ本條ニ於テ其罪ヲ論セサル者トスルニハ左ノ三個ノ要點アリ第一命令スル者ハ必ラス已レ附屬スル所ノ長官ナルヲ要ス故ニ裁判官檢察官ハ軍隊ノ司令長官ノ命令ヲ奉行ス可カラス武官兵卒ハ司法長官ノ命令ヲ奉行スヘカラス第二命令スル所ノ事件ハ必ラス長官ノ職權内ノ事件タルヲ要ス故ニ其職權外ノ命令ハ之ヲ為スヲ得ス第三奉行スル

所ノ事件ハ必ラス已レノ職權上ニ關スルヲ要ス故ニ其職權ニ關セサル事件ハ之ヲ為スヲ得ス
上文説明スル如クナルヲ以テ例ヘハ陸軍士官部下ノ兵卒ニ命シテ強姦強竊盜等ヲ為サシメタルカ如キハ士官兵卒俱ニ其罪ヲ免カル、一ヲ得ス蓋シ本條ノ主旨ハ本屬長官ノ命令ヲ受ケ為シタル所為ハ縱令ヒ不正ノ事アリト雖モ之ヲ論セスト云フニ非ラス必ラス其命令ハ本屬長官ノ職權内ニ屬スルモノニシテ且ツ己レノ職權上ニ關スル事件タラサル可カラス

第七十七條

罪ヲ犯ス意ナキノ所爲ハ其罪ヲ論セス但法律規則ニ於テ別ニ罪ヲ定メタル者ハ此限ニアラス
罪ト爲ル可キ事實ヲ知ラスシテ犯シタル者ハ其罪ヲ論セス

罪本重カル可クシテ犯ス時知ラサル者ハ其重キニ從テ論スルヲ得ス

法律規則ヲ知ラサルヲ以テ犯スノ意ナシト爲スヲ得ス

註本條ハ罪ト爲ル可キ所業アルモ之ヲ犯スノ意思ナ

キ場合ヲ示ス

第一項ハ犯人ニ於テ自由且ツ辨別ナキニ非スト雖モ其所爲ノ全ク無意ニ出タル所ハ之ヲ罪トシ論セサルヲ云フ例ヘハ射的演習ノ際人アリ突然禁ヲ犯シテ場内ニ入り銃丸ニ當リ死傷スル者又ハ論談上早卒ニ由リ他人ノ名譽ニ關スル事ヲ發言スル者ノ如キハ之ヲ殺傷又ハ讒謗ノ罪トシ罰ス可カラズ何トナレハ是レ其思慮ノ外ニ生シタル事ナルヲ以テナリ但以下ハ本項ノ例外ニシテ仮令ヒ無意ニ出ルモ不注意ヨリ生シタルハ其責ヲ免カレサル者ヲ

示ス即チ此刑法中過失殺傷條以下見合 失火^{第九條}見
合ノ罪ノ如キ又ハ他ノ法律規則ニ於テ別ニ過失ノ
罪ヲ定メタル者ハ之ヲ罰ス可キ者トス
第二項罪ト為ル可キ事實ヲ知スシテトハ例ヘハ人
ノ妻タルト又ハ十二歳未滿ノ處女タルトヲ知ラス
スシテ之ト通姦シ後始テ其有夫ノ婦又ハ十二歳未
滿ノ處女タルヲ知リタル者若クハ贓物ト知ラスシ
テ之ヲ受ケタル後其贓物ニ係ルトヲ知リタル者ノ
如キ類ヲ云フ是レ其外形ハ犯罪タリト雖モ其心術
ニ於テハ之ヲ犯スノ意思ナク全ク其事實ヲ知ラサ

ルニ因ル故ニ罪トシ論セス
第三項罪本重カル可クシテ犯ス時知ラサル者トハ
例ヘハ第三百六十三條ニ子孫其祖父母父母ニ對シ
毆打^ヲ創傷ノ罪ヲ犯シタル者ハ凡人ノ刑ニ二等ヲ加
フトアリ然ルニ今爰ニ暗夜凡人ト思料シ之ヲ毆打
創傷シタル後其祖父母父母タルトヲ知リタル如キ
此レ其祖父母父母タルトヲ知ラスシテ犯シタル者
ナレハ之ヲ犯スノ意思ナキヲ以テ加重ノ刑ヲ科ス
可カラス仍ホ凡人ニ對スルノ罪ヲ以テ論ス然レモ
子孫其祖父母父母ヲ毆打創傷セント欲シ誤テ凡人

ヲ毆打創傷シタルハ凡人ニ對スルノ罪ヲ以テ論
 ス此レ道德上ノ惡大ナルモ社會上ノ惡小ナルニ因
 リ其輕キニ從ヒ罪ヲ論スル者ナリ
 第四項ハ何人タリモ法律規則ヲ知ラサルヲ口實ト
 シテ罪惡ヲ犯スノ意思ナキ者トシ其責ヲ免カル、
 一ヲ得サルヲ云フ何トナレハ法律規則ハ既ニ頒布
 アリタル以上ハ全國人民必ラス之ヲ知ラサル可カ
 ラサルノ義務アル者ニシテ之レヲ知ラサルハ其者
 ノ過失ト云ハサル可カラス且ツ概テ法律上ニ明記
 スル所ノ罪ハ道德ニ悖リ公益ヲ害スル所爲ナルヲ

以テ其法律規則ヲ知ラサルモ之ヲ良心ニ照ス片ハ
 自カラ其善惡ヲ知ルヲ得可シ故ニ之ヲ知ラスシテ
 犯スト雖モ仍ホ其法律規則ニ從ヒ罰ス可キモノト
 ス

第七十八條

罪ヲ犯ス時知覺精神ノ喪失ニ因テ是非ヲ辨別セサル
 者ハ其罪ヲ論セス

註本條ハ罪ト為ル可キ所業アルモ犯人其事ノ是非ヲ
 識別スルノ知覺精神ヲ喪失シタルニ因リ之ヲ罪ト
 シ論セサル場合ヲ示ス

知覺精神ノ喪失トハ瘋癲白痴醉狂其他疾病老衰等
 種々ノ原由ニ因リ識別心ノ錯亂スル者ヲ云フ而シ
 テ本條ニ罪ヲ犯ス時トアルハ尤モ注意ヲ要ス此レ
 其罪ヲ論セサルハ現ニ罪ヲ犯スノ時ニ當 事ノ是
 非ヲ識別スルノ知覺精神ヲ喪失シタル者ニ限ル故
 ニ其前後ニ在テ喪失セサルモ只タ罪ヲ犯スノ時喪
 失シタル者ト雖モ本條ヲ適用ス若シ罪ヲ犯スノ時
 喪失セスシテ其前後ニ在テ喪失シタリト雖モ本條
 ノ限ニアラス然レモ犯罪ノ後糾問中偶然喪失シタ
 ル者ハ其訴訟ヲ停止シ平常ニ復スルヲ待テ糾問ス

是レ其辯護ヲ為不能ハサルヲ以テナリ又裁判宣告
 ノ後喪失シタル者ハ痊愈ニ至ル迄刑ノ執行ヲ停止
 ス是レ犯人ヲ刑ニ處スルモ更ニ感スルナク刑ノ
 効力ヲ失スルヲ以テナリ
 凡ソ知覺精神ヲ喪失スル者其狀態一様ナラス或ハ
 全部錯亂スル者アリ或ハ幾部錯亂スル者アリ醉狂
 者ノ如キニ至テハ偶然ニ醉狂シテ喪心ニ及フ者ア
 リ或ハ故サラニ酒力ヲ藉リテ其兇惡ヲ逞フスル者
 アリ或ハ醉態ヲ過大ニシテ故サラニ罪ヲ犯ス者ア
 リ此等ノ者ハ其景況ニ因リ知覺精神ノ喪失シタル

ト否トヲ審案シ罪ノ有無ヲ判決スルハ甚タ困難ニシテ法律ニ於テモ道理ニ於テモ之ヲ豫定スルヲ得ス故ニ此場合ニ於テハ一ニ裁判官ノ鑑識ニ任スル者トス

第七十九條

罪ヲ犯ス時十二歳ニ滿サル者ハ其罪ヲ論セス但滿八歳以上ノ者ハ情狀ニ因リ滿十六歳ニ過キサル時間之ヲ懲治場ニ留置スルヲ得

註本條以下ハ罪ト為ル可キ所業アルモ犯人幼年ニシテ未タ是非ヲ辨別スル知覺精神ノ完全ナラサルニ

因リ之ヲ罪トシ論セサル者ト其罪ヲ宥恕ス可キ者トノ區別ヲ示ス

凡ソ人ハ年齢ノ成長スルニ從ヒ其體カト共ニ知覺精神モ次第ニ發達増加シ漸ク二十歳ニ至リ始メテ完全ナルヲ得ヘシ故ニ其責任モ亦タ次第ニ重大ナラサル可カラス

爰ヲ以テ法律ニ於テハ丁年即チ滿二十歳以上ハ充分識別心ヲ有スル者トシ通常ノ刑ヲ以テ之ヲ罰シ幼者即チ滿二十歳以下ハ識別心ノ充分ナラサルニ由リ通常ノ刑ヲ以テ之ヲ罰セス然レモ幼者ニ在テ

モ亦タ同一視ス可カラサルヲ以テ其年齢ニ因リ三期ニ分チ十二歳以下ヲ第一期トシ十二歳乃至十六歳ヲ第二期トシ十六歳乃至二十歳ヲ第三期トシ其處分法ヲ定ム

此條ハ第一期ノ幼者犯罪ノ處分法ニシテ人生レテ十二歳以下ハ只體力ノ成育スルノミ其知覺精神ハ多少發達スルナキニ非スト雖_レ一般ニ未タ能ク其所爲ノ道德ニ悖ルト社會ヲ害スルト否トヲ識別スルノ能力ナキ者ト着做_スカ故ニ罪ヲ犯スト雖_レ其罪ヲ論セス然_レ滿八歳以上ノ者ハ其犯罪ノ情狀ニ因

リ犯人ヲ放免シ其親族ニ還付スヘカラサルカ或ハ將來惡業ヲ為スノ虞_{アリ}アル時ハ之ヲ改良セシムル為メ懲戒セサル可カラス故ニ滿十六歳ニ至ル迄ヲ期限トシ裁判官ノ意見ヲ以テ相當ノ年限間特別ニ設ケタル懲治場ニ留置シテ懲戒セシムルヲ得セシムルナリ

抑モ此懲治場ニ留置スルハ固ヨリ刑罰ト異ナリ故ニ丁年後再ヒ罪ヲ犯スト雖_レ再犯ヲ以テ論スルノ限ニアラス又本條罪ヲ犯ス時トアルハ現ニ犯罪ノ時ニ當リ十二歳以下ナルヲ要ス故ニ十二歳以上若

クハ丁年ノ後ニ至テ發覺スルモ仍ホ本條ニ照シテ處分スヘキ者トス

第八十條

罪ヲ犯ス時滿十二歳以上十六歳ニ滿サル者ハ其所爲是非ヲ辨別シタルト否トヲ審案シ辨別ナクシテ犯シタル時ハ其罪ヲ論セス但情狀ニ因リ滿二十歳ニ過キサル時間之ヲ懲治場ニ留置スルヲ得
若シ辨別アリテ犯シタル時ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ二等ヲ減ス

註本條ハ第二期ノ幼者犯罪ノ處分法ニシテ十二歳乃

至十六歳ノ者ハ漸ク知覺精神モ發達シ事ノ是非ヲ識別スルヲ得ルト雖モ未タ概シテ之アリト云ス可カラス故ニ裁判官其所爲ニ於テ實際是非ヲ識別シタルト否トヲ審案驗シ全ク辨別ナクシテ犯シタル者ト判定シタル時ハ前條ト同シク其罪ヲ論セス又々其犯罪ノ情狀ニ因リ滿二十歳ニ至ル迄ヲ期限トシ相當ノ年限間之ヲ懲治場ニ留置スルヲ得セシム若シ辨別アリテ犯シタル者ト決定シタル時ハ其罪ヲ論ス然レモ丁年者ニ比スレハ其能力未タ充實セサルヲ以テ法律上其罪ヲ宥恕シテ本刑即チ

通常ノ刑ニ二等ヲ減輕ス

第八十一條

罪ヲ犯ス時滿十六歳以上二十歳ニ滿サル者ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ一等ヲ減ス

註本條ハ第三期ノ幼者犯罪ノ處分法ニシテ十六歳乃至二十歳ノ者ニ至テハ一般ニ知覺精神備ハリ已ニ是非ヲ識別スルノ能力ヲ有スル者ト者做ス故ニ其所爲是非ヲ辨明シタルト否トヲ問ハス刑ヲ科ス可キ者トス然レ氏之ヲ丁年者ニ比スレハ其能力仍ホ完全セサル所アルヲ以テ法律上其罪ヲ宥恕シテ僅

カニ本刑ニ一等ヲ減ス

第七十九條以下本條ニ於テ幼者ノ年齢ニ付知覺精神ノ發達増加スルノ度ヲ三期ニ分チ其犯罪ノ處分方ヲ一定スルモ實際ニ就テ之レヲ徵スルニ其性質ノ智愚教育ノ有無ニ因リ一様ナラス或ハ十二歳以下ニシテ十六歳以上ノ能力ヲ有シ或ハ丁年者ニシテ其能力十六歳以下ノ者ニ及ハサルアリ且ツ一期内ト雖氏多少ノ等差ナキ能ハス然レ氏法律ニ於テハ此ノ如キヲ豫定スルヲ得ス故ニ三個ノ大別ヲ設ケ而シテ犯人各自ノ能力ニ付テハ裁判官ノ鑑

識ニ任シ之ヲ處分セシム

又法律上老年者ニ宥恕減輕ヲ與ヘサル所以ハ蓋シ老年者ハ幼年者ノ如ク必スシモ知覺精神ノ完全ナラサル者ニ非ス只其氣力衰弱シ精神欠乏スルヲアルモ一般ニ能力ノ完全ナラサル者ト云フヲ得ス故ニ老年者ニシテ能力ノ衰乏シタルト否トハ裁判官之レヲ判定シ其情狀ヲ酌量シテ減輕スルノミ

第八十二條

瘖啞者罪ヲ犯シタル時ハ其罪ヲ論セス但情狀ニ因リ五年ニ過キサル時間之ヲ懲治場ニ留置スルヲ得

註本條ハ罪トナル可キ所業アルモ犯人瘖啞者ナル時

ハ之ヲ罪トシ論セサルヲ示ス

夫レ瘖啞者ハ生來不具ナルニ因リ耳音聲ヲ聞ク能ハス口言語ヲ發スル能ハス從テ之ヲ教育スルヲ得ス真ニ人類ノ交際ナキ者ト一般ニシテ不具中ノ最モ憫然ナル者ナリ故ニ其年齡ノ如何ヲ問ハス十二歳以下ノ幼者ト同視シテ事ノ是非ヲ辨別スル知覺精神ヲ有セサル者ト看做シ其罪ヲ論セサルナリ然レモ犯罪ノ情狀ニ因リ例ヘハ放火強姦及ヒ殺害等ノ罪ヲ犯シ再ヒ危嶮ノ所爲アラントノ虞アル者ハ

之ヲ改良セシムル爲ノ裁判官ノ判定ヲ以テ五年以
 内ノ時間懲治場ニ留置シテ懲戒スルヲ得セシム
 又々幼年ノ時若クハ丁年後ニ至リ瘖啞ニ罹ル者或
 ハ盲者聾者ノ如キハ多少教育ヲ受クルヲ得能ク事
 ノ是非ヲ辨別スル者アルヲ以テ生來ノ瘖啞者ト同
 視シ難シ故ニ本條ノ限ニアラス唯々裁判官其情狀
 ヲ酌量シテ之ヲ處斷スルノミ

第八十三條

違警罪ハ滿十六歳以上二十歳ニ滿サル者ト雖凡其罪
 ヲ宥恕スルヲ得ス

滿十二歳以上十六歳ニ滿サル者ハ其罪ヲ宥恕シテ本
 刑ニ一等ヲ減ス十二歳ニ滿サル者及ヒ瘖啞者ハ其罪
 ヲ論セス

〔註〕本條ハ幼者及ヒ瘖啞者ノ違警罪ヲ犯ス時不論罪及
 ヒ宥恕ノ處分ヲ示ス

抑モ違警罪ハ罪ノ最モ輕ク刑ノ最モ微ナルモノニ
 シテ之ヲ罰スル目的タル專ラ警察上ノ取締ニ關ス
 ルカ故ニ其所為タル道德ノ害トナラサルモ社會ヲ
 害スルキハ則チ惡意ノ有無ヲ問ハス唯々外顯ノ事
 實アルハ之ヲ罰スル者ナルヲ以テ十六歳乃至二十

歳ノ幼者ト雖モ宥恕ヲ與ヘスシテ丁年者ト同シク其罪ヲ論シ十二歳乃至十六歳ノ幼者ハ其是非ヲ辨別シタルト否トヲ分タス僅カニ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ一等ヲ減スルノミ十二歳以下ノ幼者及ヒ瘖啞者ノ如キハ固ヨリ全ク知覺精神ナキ者ト看做スヲ以テ違警罪ニ於テモ之ヲ罰スルヲ得ス故ニ其罪ヲ論セサル者トス又タ其犯罪ノ輕微ナルニ因リ之ヲ留置スルヲナシ

第八十四條

此節ニ記載スルノ外特別ノ不論罪宥恕減輕ハ各本條

ニ於テ之ヲ記載ス

註前數條ニ記載スル所ノ不論罪及ヒ宥恕減輕ハ犯罪ノ性質犯人ノ身分ノ如何ヲ問ハス一般ニ之ヲ適用スル法則ナリト雖モ其他各本條ニ於テ特別ノ不論罪及ヒ宥恕減輕ヲ記載ス此レ一般ニ適用スル法則ニ非スシテ特別ノ場合ニ限ル者トス即チ第三百九條以下及ヒ第五百五十三條第三百七十七條ニ記載スル者ノ如キ是ナリ

第二節 自首減輕

註本節ノ減輕ハ前節ト大ニ其性質ヲ異ニシ前

節ハ犯人罪ノ元素タル三個ノ要點即チ自由
 辨別意思ヲ欠失スルニ因リ其罪ヲ論セス又
 ハ其罪ヲ宥恕スルノ例ヲ示シ此節ハ犯人罪
 ノ元素タル三個ノ要點ヲ具備スルモ自カラ
 其罪ヲ自首スルニ因リ其刑ヲ減輕スルノ例
 ヲ示ス

抑モ自首ニ因リ其刑ヲ減輕スル所以ハ旧法
 ノ自首法ト其理由同シカラス旧法ニ於テハ專
 ラ犯人悔悟ノ點ニアリト雖モ新法ニ於テハ
 獨リ犯人悔悟ノ心アルノミナラス尚ホ他ノ

理由ニ因ルモノトス他ノ理由トハ犯人事未
 タ發覺セシテ其罪ヲ自首シタル時ハ官其
 犯人ヲ搜索スルノ煩勞ト費用ヲ省キ又夕犯
 人踪跡ヲ隠匿シテ罪ヲ免カル、患ヲ防キ又
 夕本犯刑ヲ逃レ為メニ他ノ無辜者ノ冤罪ニ
 隣ルノ患ヲ防クニアリトス

第八十五條

罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首シタル
 者ハ本刑ニ一等ヲ減ス但謀殺故殺ニ係ル者ハ自首減
 輕ノ限ニ在ラス

註本條ハ自首減輕ヲ與フルノ要領ト自首減輕ヲ與ヘサルノ區別ヲ示ス

自首減輕ヲ與フルニ二個ノ要領アリ其一事未タ發覺セサル前ニ於テ自首スルヲ要ス故ニ重罪輕罪違警罪ヲ問ハス被害者ノ告訴若クハ他人ノ告發其他ノ原由ニ因リ事既ニ官ニ發覺シタル後ニ條ル者ハ縱令ヒ本犯之レヲ知ラスト雖モ自首減輕ノ限リニアラス何トナレハ其發覺シタル後ニ在テハ官已ニ搜索ニ着手シ從テ犯人罪ヲ免カル、ノ患ナク又々他ノ無辜者ノ冤罪ニ陥ルノ患ナケレハ自首スルモ

社會ニ利益ナキヲ以テナリ其二官ニ自首スルヲ要ス官トハ裁判所或ハ警察署ヲ云フ夫レ裁判所及ヒ警察署ハ犯人ヲ搜索捕獲スルヲ主務トスル官廳ナルヲ以テ事未タ發覺セサル以前他ニ自首スルト雖モ此等ノ官署ニ自首セサル時ハ毫モ其効ヲ有セス故ニ官ニ自首セサレハ減輕スルヲ得サル者トス但第八十七條ノ場合ハ格別ナリ
以上二個ノ要領ヲ具備スル時ハ何等ノ罪ト雖モ自首スレハ減輕スルヲ得然リ而シテ謀故殺ノ罪ニ自首減輕ヲ聽サ、ル所以ハ此等ノ罪ハ極惡至重ノ罪

ニシテ道德上ノ惡社會上ノ害之ヨリ大ナルハナク
 法理人情ニ於テモ之ヲ減輕スルノ謂レナキヲ以テ
 ナリ何トナレハ謀故殺ノ罪ヲ犯ス者ハ多クハ死刑
 若クハ無期徒刑ニ該ル然ルニ兇棍トモラノ徒人トモラヲ殺シ或
 ハ子孫其祖父母父母ヲ殺シ自首スルニ因リ減輕シ
 テ之ヲ死刑若クハ無期徒刑以下ニ降ス時ハ法律以
 テ之ヲ懲戒スルニ足ラス又タ人情ノ許サ、ル所ナ
 リ故ニ自首スルモ仍ホ本刑ニ處ス

第八十六條

財産ニ對スル罪ヲ犯シタル者自首シテ其贓物ヲ還給

シ損害ヲ賠償シタル時ハ自首減等ノ外仍ホ本刑ニ二
 等ヲ減ス其全部ヲ還償セスト雖モ半數以上ヲ還償シ
 タル時ハ一等ヲ減ス

註本條ハ財産ニ關スル罪ヲ犯シ自首シテ贓物ヲ返還
 シ損害ヲ賠償シタル時ノ減等法ヲ示ス

財産ニ關スル罪トハ強竊盜遺失物理藏物詐欺取財
 及ヒ受寄財物其他財産ニ關スル罪ヲ云フ此等ノ罪
 ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ於テ自カラ官ニ出首
 シ俟セテ其取ル所ノ贓物ノ全部ヲ返還シ及ヒ其加
 フル所ノ損害ノ全部ヲ賠償シタル時ハ前條ノ例ニ

照シ一等ヲ減スル外仍ホ本刑ニ二等ヲ減シ通シテ
三等ヲ減ス是レ蓋シ自首シテ贓物及ヒ損害ノ全部
ヲ還償シタル時ハ被害者ニ於テハ更ニ損失ヲ被ラ
ス且ツ他ノ裁判所ノ審判ニ依リ之ヲ還償シタル者
ニ比スレハ其情大ニ異ナル所アルヲ以テナリ然レ
氏之ヲ全免セサル所以ハ犯罪ノ為メ一夕ヒ社會ヲ
擾亂シ且ツ道德上ノ罪ハ消滅セサルヲ以テ止夕之
ヲ減輕スルノミ又タ其全部ヲ還償セスト雖モ半數
以上ヲ還償シタル時ハ前條ノ例ニ照シ一等ヲ減ス
ル外仍ホ本刑ニ一等ヲ減シ通シテ二等ヲ減ス其半

數ニ満たサル時ハ前條ニ照シ一等ヲ減スル外全ク
還償セサル者ト同シク減等ヲ與ヘス然レモ之ヲ全
ク還償セサル者ニ比スレハ尚ホ情ノ恕スヘキアリ
故ニ裁判官ハ其情狀ニ依リ或ハ酌量減輕シ若クハ
刑期ノ範圍内ニ於テ相當ノ處斷ヲ為スヲ得ルハ
論ヲ竣キツクナリザルナリ

第八十七條

財産ニ對スル罪ヲ犯シ被害者ニ首服シタル者ハ官ニ
自首スルト同シク前二條ノ例ニ照シテ處斷ス

註 凡ソ自首スルハ必ラス官ニ於テスヘキハ一般ノ法

則ナリ然レモ財産ニ對スル罪ハ必ラス官ニ自首セ
 スト雖モ直チニ被害者ニ首服シタル者ハ官ニ自首
 シタルト同シク自首シタル者ハ第百八十五條ニ照シ
 一等ヲ減シ其贓物及ヒ損害ノ全部ヲ還償シタルト
 半數以上ヲ還償シタルトハ即チ第百八十六條ノ區別ニ
 依リ仍ホ一等若クハ二等ヲ減シ又タ半數ニ滿タサ
 ル者ハ止メ自首ノ減等ノミヲ與ヘ處斷ス可キモノ
 トス

第百八十八條

此節ニ記載スルノ外本條別ニ自首ノ例ヲ掲ケタル者

ハ各其本條ニ從フ

〔註〕前數條ニ記載スル所ノ自首減輕ハ一般ニ適用スル
 法則ニシテ其他各本條ニ記載スル自首減輕アリ是
 レ特ニ其事犯ニ限リ適用スル者ニシテ其本刑ヲ全
 免ス即チ第百二十六條第百九十二條第百二十六
 條第百五十六條ノ如キ各其本條ニ從ツテ處斷ス

第百三節 酌量減輕

〔註〕酌量減輕トハ犯人ノ事情罪狀ノ憫諒スヘキ
 者アルキ裁判官之ヲ酌量シ法律ニ定ムル所
 ノ刑ヲ減輕スルヲ云フ

凡ソ犯罪ノ情狀ニ二個ノ別アリ其一確定ノ
罪狀其二關係ノ罪狀是ナリ確定ノ罪狀トハ
即チ有形ノ罪狀ニシテ例ヘハ強竊盜放火謀
故殺強姦ノ如キ法律上何々ノ罪ハ何々ノ刑
ヲ科ス可シト豫カシメ規定シ得ヘキ者ヲ云
ヒ關係ノ罪狀トハ各自ニ關係スル犯罪ノ情
狀即チ無形ノ罪狀ニシテ法律上豫シメ規定
シ得ヘカラサル者ヲ云フ蓋シ法律ニハ有形
ノ罪狀ハ之ヲ規定シ得ルモ無形ノ罪狀ハ之
ヲ規定スルコトヲ得ス何トナレハ竊盜ハ有形

ノ罪狀ナルヲ以テ法律上之ヲ規定スルヲ得
然レモ今數人ノ竊盜犯アラシニ其犯罪ハ同
一ナルモ各自ニ關係スル犯罪ノ情狀即チ無
形ノ情狀ニ至テハ千差万別ニシテ同一ナラ
サルヲ以テ法律上之ヲ規定スルコトヲ得ス故
ニ立法官之ヲ豫定セズ裁判官ヲシテ實際ノ
情狀ヲ審按酌量シテ適當ノ處分ヲ為サシム
是レ酌量減輕法ノ設ケアル所以ナリ
而シテ關係ノ罪狀所謂各自ニ關係スル犯罪
ノ情狀ハ種々ノ原因ヨリ生ス即チ教育ノ良

否、年齢ノ老幼、身體ノ強弱、身分ノ貴賤、生計ノ貧富、資質ノ智愚、素行ノ善惡、他ノ激峻誘導、時機ノ緩急、土俗ノ習慣、其他所為ノ義憤ニ出テ或ハ犯人ノ悔悟自首シ又ハ自カラ贓物損害ノ還償ヲ為ス等其場合タル一ニシテ足ラス裁判官ハ此等ノ情狀ヲ視察シ其緻察ナル差異ヲ鑑別シ其感覺スル所ニ據リ之ヲ判定シテ酌減ヲ與フヘキ者トス又々前二節ノ減輕ト此節ノ減輕ト異ナル所以ハ前二節ノ減輕ハ有形ノ罪狀ニ就キ法律

上ニ確定セル者ナリ故ニ裁判官ハ其確定セル場合ノ外ハ必ラス適用ス可カラス又々確定セル場合ニハ必ラス適用セサル可カラス此節ノ減輕ハ何レノ場合ト雖モ苟クモ原諒スヘキ情狀アルキハ之ヲ適用スルヲ得之ヲ要スルニ前二節ノ減輕ハ法律ニ於テ其減輕スヘキ事實ヲ制限シ此節ノ減輕ハ法律ニ於テ其減輕スヘキ事實ヲ制限セサルモノトス

第八十九條

重罪輕罪違警罪ヲ分タス所犯情狀原諒ス可キ者ハ酌量シテ本刑ヲ減輕スルヲ得

法律ニ於テ本刑ヲ加重シ又ハ減輕ス可キ者ト雖モ其酌量ス可キ時ハ仍ホ之ヲ減輕スルヲ得

〔註〕本條ハ犯罪ノ情狀ヲ酌量シテ本刑ヲ減輕スルノ例ヲ示ス

凡ソ罪ノ種類ノ如何ナルヲ問ハス其犯ス所ノ情狀即チ前ニ説明スル種々ノ原由ニ由リ原諒スヘキ者アルモハ裁判官ノ意見ヲ以テ之ヲ酌量リテ法律上ニ定ムル所ノ刑ヲ減輕シテ相當ノ處分ヲ為ス

ヲ得ヘキ者トス又ハ法律ニ於テ本刑ヲ加重スル場合即チ再犯加重其他各本條ニ記載スル所ノ加重スル者又ハ法律ニ於テ減輕スル場合即チ宥恕減輕自首減輕從犯ノ減輕未遂犯ノ減輕其他各本條ニ記載スル所ノ減輕スル者ト雖モ尚ホ其情狀原諒スヘクシテ刑ノ過酷ナリト認ムルモ一旦加重スルモ裁判官ノ意見ヲ以テ更ニ減輕シ又之ヲ減輕スルモ復減輕スルヲ得ヘキ者トス

第九十條

酌量減輕ス可キ者ハ本刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

〔註〕本條ハ前條ノ例ニ依リ酌量減輕ヲ為スノ定限ヲ示ス即チ裁判官ノ意見ヲ以テ犯罪ノ情狀ヲ酌量シ減輕ヲ行フ時ハ其情狀ノ程度ニ依リ一等又ハ二等ヲ減輕スルヲ得ヘキ者トス

第五章 再犯加重

〔註〕本章ハ前ニ罪ヲ犯シ既ニ刑ニ處セラレタル者即チ刑ノ言渡ヲ受ケ裁判確定シ其刑ノ執行中若クハ刑ノ執行ヲ終リタル後再ヒ罪ヲ犯シタル時本刑ヲ加重スル例ヲ示ス此レ數罪俱發スル者ト同シカラス數罪俱發ノ事ハ後章ニ至リ

説明スヘシ

抑モ再犯ノ時其刑ヲ加重スル所以ハ一度ヒ惡業ヲ為シ既ニ刑ニ處セラレ身ハ責罰ヲ受ケ其艱苦ヲ嘗メタルニ尚ホ悔悟悛改スル所ナク再ヒ惡業ヲ為スニ至テハ其心頑然トシテ刑典ニ觸ル、ヲ意トセス且ツ道德ニ悖リ社會ヲ害スルノ大ナル者ニシテ其情狀甚々疾ム可ク通常ノ刑ヲ以テ之レヲ罰スルモ懲戒スルニ足ラサル可シ故ニ本刑ヲ加重シテ其刑ヲ嚴ニス凡ソ法律ニ於テ罪ヲ重罪輕罪違警罪ノ三種ニ

別ツ故ニ再犯ノ場合ニ九個アリ然レモ悉ク其刑ヲ加重スヘキ者ニ非ス或ハ之ヲ加重スルモノト加重セサル者トノ別アリ九個ノ場合トハ左ノ如シ

初犯重罪ニシテ

- 第一 再犯重罪ナル者ハ加重ス即チ第九十條ノ場合
- 第二 再犯輕罪ナル者ハ加重ス即チ第九十條ノ場合
- 第三 再犯違警罪ナル者ハ加重セス
- 初犯輕罪ニシテ
- 第四 再犯重罪ナル者ハ加重セス

- 第五 再犯輕罪ナル者ハ加重ス即チ第九十條ノ場合
- 第六 再犯違警罪ナル者ハ加重セス

初犯違警罪ニシテ

- 第七 再犯重罪ナル者ハ加重セス
 - 第八 再犯輕罪ナル者ハ加重セス
 - 第九 再犯違警罪ナル者ハ加重ス即チ第九十條ノ場合
- 以上九個ノ中第一第二第五第九ノ四個ノ場合ニ於テハ本刑ニ一等ヲ加フ其他五個ノ場合ニ於テハ加重セス
- 第三第六ノ場合即チ初犯重罪又ハ輕罪ニシテ

再犯違警罪ナル時加重セサル所以ハ前ニ説明スル如キ違警罪ハ警察上取締ノ刑ニシテ犯人惡意ノ有無ヲ問ハス外顯ノ事實ヲ以テ之ヲ罰シ且ツ罪ノ輕微ナル者ナレハ前ニ重罪又ハ輕罪ノ刑ニ處セラレ再ヒ違警罪ヲ犯スト雖モ其情狀疾ムヘキ者ト云フヲ得ス故ニ加重セス又タ第七第八ノ場合即チ初犯違警罪ニシテ再犯重罪又ハ輕罪ナル時加重セサル所以ハ上文ノ理由ト同ク且ツ後犯ノ本刑ニテ已ニ十分犯人ヲ懲戒スルニ足ルヲ以テナリ故ニ加重セス

第四ノ場合即チ初犯輕罪ニシテ再犯重罪ナル時加重セサル所以ハ重罪ノ刑ハ輕罪ノ刑ヨリ重キト固ヨリ論ヲ竝タス故ニ初犯輕罪ノ刑ニ處セラル、者ト雖モ再犯重罪ノ刑ニ該ル時ハ敢テ加重セサルモ犯人ヲ懲戒スルニ足ル且ツ之ヲ加重スル時ハ或ハ過酷ニ失スルノ憂アルヲ以テナリ又タ初犯重罪ノ刑ニ該ル者減輕シテ第六十九條ノ例ニ依リ二年以上五年以下ノ禁錮ニ處セラレ再犯輕罪ナル時ハ仍ホ第九十二條ノ例ニ

依リ輕罪ノ再犯ヲ以テ加重ス若シ再犯重罪ナル時ハ第四ノ場合ト同ク加重セス初犯輕罪ノ刑ヲ減輕シテ違警罪ノ刑ニ降シ再犯違警罪ナル時ハ第九十三條ノ例ニ依リ加重シ若シ再犯重罪又ハ輕罪ナル時ハ第三第六ノ場合ト同シク加重セス

又タ第六十六條ニ定ムル如ク重罪ノ刑ハ加ヘテ死刑ニ入ルヲ得サルノ法ナルヲ以テ初犯重罪又ハ輕罪ニシテ再犯重罪ナル時ト雖モ無期徒刑ニ止リ無期徒刑ヨリ加重シテ死刑

ニ處スルヲ得ス

第九十一條

先ニ重罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯重罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ

註

本條ハ初犯再犯共ニ重罪ナル時其刑ヲ加重スルノ例ヲ示ス者ニシテ即チ先ニ重罪ヲ犯シ徒流刑懲役又ハ禁獄ノ刑ニ處セラレタル後チ尚ホ悔悛セス再ヒ重罪ヲ犯シタル時ハ常事犯罪ナレハ第六十七條國事犯罪ナレハ第七十八條ノ例ニ照シ其本刑ニ一等ヲ加フ例ハ常事犯罪ニシテ初犯重懲役ノ刑ニ

處セラレタル者再犯有期徒刑ニ該ル時ハ加重シテ
 無期徒刑ニ處シ又國事犯罪ニシテ初犯輕禁獄ノ刑
 ニ處セラレタル者再犯重禁獄ニ該ル時ハ有期徒刑
 ニ處スルノ類ナリ然レ氏再犯ノ罪無期徒刑ニ該
 ル時ハ加ヘテ死刑ニ入ルヲ得ス是レ已ニ第六十六
 條ニ於テ詳説セルヲ以テ今茲ニ贅セス

第九十二條

先ニ重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯輕罪ニ該ル
 時ハ本刑ニ一等ヲ加フ

註本條ハ初犯再犯共ニ輕罪又ハ初犯重罪ニシテ再犯

輕罪ナル時其刑ヲ加重スルノ例ヲ示ス者ニシテ即
 チ先キニ輕罪ヲ犯シ禁錮若クハ罰金ノ刑ニ處セラ
 レタル者又ハ先ニ重罪ヲ犯シ徒流刑以下ノ刑ニ處
 セラレタル者再ヒ輕罪ヲ犯シタル時ハ第七十條ノ
 例ニ照シ其本刑ニ一等ヲ加フル者トス初犯重罪ノ
 刑ニ處セラレタル者再犯輕罪ニ該ル時ト雖氏仍ホ
 之ヲ加重スルモノハ先キニ重大ナル處刑ヲ受ケ尚
 ホ其心ヲ改良セス再ヒ罪ヲ犯ス固ヨリ通例ノ刑ヲ
 以テ懲戒シ得ヘキ者ニアラス是レ其刑ヲ加重スル
 所以ナリ

第九十三條

先ニ違警罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯違警罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ但一年内再ヒ其違警罪裁判所ノ管轄地内ニ於テ犯シタル時ニ非サレハ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得ス

〔註〕本條ハ初犯再犯共ニ違警罪ナル時其刑ヲ加重スルノ例ヲ示ス蓋シ違警罪ハ重罪又ハ輕罪ノ前後ニ於テ之ヲ犯スモ再犯ヲ以テ論セサルハ已ニ説明セリ而シテ違警罪ノ再犯加重ヲ為スニハ二個ノ制限アリ其一前後ノ所犯一年内ニ係ルヲ要ス但シ一年内初犯ノ

月ヨリ再犯ノ月マテ一年ノ月數即チ十二月内ナルヲ云フ 其二同一ノ違警罪裁判所ノ管内ナルヲ要ス故ニ一年内ニ再ヒ違警罪ヲ犯スト雖モ同一ノ違警罪裁判所ノ管轄地内ニ於テ犯シタル者ニ非サレハ其刑ヲ加重セス又々同一ノ違警罪裁判所ノ管轄地内ニ於テ再ヒ違警罪ヲ犯スト雖モ一年内ニ係ル者ニ非サレハ其刑ヲ加重セス何トナレハ違警罪ハ既ニ屢説明スル如ク罪ノ最モ輕微ナルモノニシテ犯人惡意ノ有無ヲ問ハス苟クモ警察ノ取締上ニ背戾スル片ハ之ヲ罰スルモノナレハ平素謹厚方正ノ人ト雖モ之ヲ犯ストナシト

セズ從テ犯人モ亦夥多ナリ且此刑法第四編ニ記載
 スル外第四百三十條ニ示ス如ク各地方ノ便宜ニ因
 リ定ムル所ノ刑ヲ以テ罰スルコトアリ故ニ甲地方ニ
 於テ罰スル者モ乙地方ニ於テ罰セサル者アリ然ル
 ニ重罪輕罪ノ再犯ノ如ク時ト場所トヲ問ハス再犯
 ヲ以テ論スルキハ甚タ苛酷ニ涉ルノミナラス實際
 處分上ニ於テモ許多ノ煩雜ヲ免カレス許多ノ煩雜
 トハ何ソヤ一ノ違警罪犯アルゴトニ一々全國ノ裁
 判所ニ其前犯ノ有無ヲ照會セサル可カラス又タ一
 ヲ往時ニ遡リ其犯數ヲ調査セサル可カラス是レ到

底行ヒ難キノ事タリ爰ヲ以テ之カ制限ヲ設ケ一年
 内即時同一ノ違警罪裁判所ノ管轄地内即時ニ於テ
 再ヒ違警罪ヲ犯シタル者ニ非サレハ再犯ヲ以テ論
 セサル者トス

第九十四條

再犯加重ハ初犯ノ裁判確定ノ後ニ非サレハ之ヲ論ス
 ルコトヲ得ス

註 本條ハ猶ホ前數條ニ於テ先ニ何々ノ刑ニ處セラレ
 タル者トアルノ註脚ノ如シ然レモ此條ハ最モ緊要
 ナル條目ニシテ即チ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得ヘキ

時ヲ示ス凡ソ再犯ト為シ其刑ヲ加重スルニハ初犯ノ裁判確定シタル後ナルヲ要ス故ニ初犯ノ裁判言渡ニ對シ檢察官其他訴訟關係人ヨリ治罪法ニ定ムル所ノ規則ニ從ヒ上訴ノ期限内ニ故障控訴上告其他ノ上訴ヲ經盡シタルカ又ハ此等ノ上訴ヲ為サスシテ其期限ヲ經過シタル後チ新クニ犯シタル罪ハ再犯ヲ以テ論シ一等ヲ加フ若シ上訴ノ期限内又ハ上訴ヲ為シテ其判決アル迄ニ犯シタル罪ハ再犯ヲ以テ論セス第百條以下ニ定ムル所ノ數罪俱發ノ例ニ照シ處斷スヘキ者トス蓋シ初犯ノ裁判確定ノ後

ニ非ラサレハ之ヲ論スルコトヲ得サル所以ハ上訴ヲ為スルハ前裁判言渡ヲ破毀セラル、コトアルヲ以テナリ

第九十五條

刑期限内再ヒ罪ヲ犯スニ因リ刑ヲ宣告シタル時ハ先ツ其定役ニ服ス可キ者ヲ執行シ定役ニ服セサル者ヲ後ニス若シ初犯再犯共ニ定役ニ服スル刑ニ該ル時又ハ共ニ定役ニ服セサル刑ニ該ル時ハ先ツ其重キ者ヲ執行ス

罰金科料ニ該ル者ハ順序ニ拘ハラズ各之ヲ徵收ス

註本條ハ初犯ノ刑未タ終ラサル内更ニ再ヒ罪ヲ犯ス
ニ因リ再犯ノ刑ヲ宣告シタル時前後ノ二刑一時ニ
執行スルヲ得サルヲ以テ其執行ノ順序ヲ定ムル者
ニシテ則チ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ處分ス

第一初犯再犯ノ内一ハ定役ニ服シ一ハ定役ニ服セ
サル刑ニ該ル時此場合ニ於テハ先ツ其定役ア
ル者ヲ執行シ定役ナキ者ヲ後ニス例ヘハ初犯
輕禁獄六年ノ刑ニ處セラレタル者三年ヲ經過
スルノ後再ヒ罪ヲ犯スニ因リ重懲役八年ノ刑
ヲ宣告シタル時ハ先ツ重懲役ヲ執行シ刑期滿

限ノ後チ更ニ輕禁獄ノ殘期三年ヲ執行スル類
ヲ云フ然レモ初犯無期流刑以下ノ刑ニ處セラ
レタル者再犯無期徒刑ニ該ル時又ハ初犯無期
徒刑ニ處セラレタル者再犯無期流刑以下ノ刑
ニ該ル時ノ如キハ一ノ無期徒刑ノミヲ執行ス
第二初犯再犯共ニ定役ニ服スル刑ニ該ル時此場合
ニ於テハ先ツ其重キ刑ヲ執行シ輕キ刑ヲ後ニ
ス例ヘハ初犯重禁錮五年ノ刑ニ處セラレタル
者三年ヲ經過シタル後再ヒ罪ヲ犯スニ因リ輕
懲役七年ノ刑ヲ宣告シタル時ハ先ツ重キ輕懲

後七年ノ刑ヲ執行シ刑期滿限ノ後チ更ニ重禁錮ノ殘期二年ヲ執行スル類ヲ云フ然レモ初犯若クハ再犯無期徒刑ニ該ル時ノ如キハ一ノ無期徒刑ノミヲ執行ス

第三初犯再犯共ニ定後ニ服セサル刑ニ該ル時此場合ニ於テモ先ツ其重キ刑ヲ執行シ輕キ刑ヲ後ニス例ヘハ初犯輕禁獄七年ノ刑ニ處セラレタル者二年ヲ經過シタル後チ再ヒ罪ヲ犯スニ因リ重禁獄十年ノ刑ヲ宣告シタル時ハ先ツ重キ重禁獄十年ノ刑ヲ執行シ刑期滿限ノ後チ更ニ

輕禁獄ノ殘期五年ヲ執行スルノ類ヲ云フ然レモ初犯若クハ再犯無期徒刑ニ該ル時ノ如キハ一ノ無期徒刑ノミヲ執行ス

第四初犯又ハ再犯或ハ初犯再犯共ニ罰金科料ニ該ル時此場合ニ於テハ前ニ定ムル如キ順序ニ拘ハラス其時々各之ヲ徵收ス但シ完納ノ方法ハ第二十七條第三十條ノ例ニ據リ處分ス

抑モ此條前後二刑ノ執行順序ヲ定ムルニ其定後ニ服スル者若クハ其重キ者ヲ先ニスル所以ハ再犯者ヲシテ其罰ノ嚴ナルヲ知テ大ニ懲戒スル所アラシ

ムル為ナリ若シ順序ニ依リ執行スル片ハ赦典又ハ
 逃走若クハ犯人死去スル等ニ依リ遂ニ再犯ノ刑ヲ
 免カレ之ヲシテ其罰ノ畏ルヘキヲ知ラシムルヲ
 得ス隨テ再犯ヲ刑スルモ其効ヲ見サルニ至ルヲ以
 テナリ

第九十六條

陸海軍裁判所ニ於テ判決ヲ經タル者再ヒ重罪輕罪ヲ
 犯シタル時ハ初犯ノ非常律ニ從ヒ處斷シタル者ニ非
 サレハ再犯ヲ以テ論スルヲ得ス

註本條ハ先ニ重輕罪ヲ犯シ陸海軍裁判所ニ於テ判決

ヲ經タル者再ヒ重輕罪ヲ犯ス時加重スルノ方法ヲ
 示ス者ニシテ初犯ノ罪軍事裁判所ニ於テ常律即チ
 此刑法ニ據リ處斷シタル者ニ非ラサレハ再犯ヲ以
 テ論シ加重セサル者トス何トナレハ縱令裁判所ヲ
 異ニスルモ此刑法ヲ以テ罰セラレタル者ニシテ再
 ヒ此刑法ニ觸ル、時ハ法律ノ權力固ヨリ再犯加重
 スルヲ得ルハ當然ナリ而シテ初犯ノ罪陸海軍ニ關
 スル法律ヲ以テ處斷シタル者再ヒ重輕罪ヲ犯スモ
 再犯ヲ以テ論セサル所以ハ第四條ニ掲クル如ク此
 刑法ハ陸海軍ニ關スル法律ヲ以テ論ス可キ者ニ適

用スルヲ得ストノ原則アルヲ以テナリ蓋シ陸海
軍ニ關スル法律ハ常律ニ比スレハ特ニ嚴酷ナル者
ナレハ再犯加重ノ例ヲ適用スルヲ得ス

第九十七條

大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ再ヒ罪ヲ犯スト雖再
犯ヲ以テ論スルヲ得ス

〔註〕本條ハ再犯ヲ以テ論セサルノ場合ヲ示ス者ニシテ
大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ再ヒ罪ヲ犯スト雖再
犯ヲ以テ論セサル者トス何トナレハ既ニ第六十
四條ニ於テ詳説スル如ク大赦ノ効力ハ一般其罪過

刑罰ヲ共ニ消滅セシメ一點ノ蹟ヲ殘サス社會ニ於
テ全ク之ヲ遺忘シタル者ト見做スヲ以テナリ故ニ
再犯加重ノ基礎ト為サスシテ初犯ヲ以テ其罪ヲ論
スル者トス然レハ特赦刑ノ期滿免除若クハ自首ニ
因リ免罪ヲ得タル者ハ其罪過刑罰ノ消滅シタル者
ニ非ラス故ニ再ヒ罪ヲ犯ス時ハ先ニ處刑ヲ受ケタ
ル者ト同シク前數條ノ例ニ照シ再犯ヲ以テ論スヘ
キ者トス

第九十八條

三犯以上ノ者ト雖其加重ノ法ハ再犯ノ例ニ同シ

註本條ハ三犯以上ノ者ノ加重方法ヲ示ス即チ三犯若クハ四犯ニ至ルモ仍ホ再犯ノ例ト同ク一等ヲ加重スルニ止マル者トス此レ蓋シ犯數ニ從ヒ加重スル片ハ大ニ酷ニ過ルヲ以テ特ニ此條ニ於テ其制限ヲ明示ス

第六章 加減順序

第九十九條

犯罪ノ情狀ニ因リ總則ニ照シ同時ニ本刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ左ノ順序ニ從テ其刑名ヲ定ム但從犯及ヒ未遂犯罪ノ減等其他各本條ニ記載スル特別ノ加重減

輕ハ其加減シタル者ヲ以テ本刑ト為ス

一再犯加重

二宥恕減輕

三自首減輕

四酌量減輕

註本條ハ犯罪ノ情狀ニ因リ一罪中總則ニ規定スル所ノ加重又ハ減輕ス可キ者同時ニ現出シタル時之ヲ加減スルノ方法ヲ定ムル者ニシテ其方法ハ即チ本條ニ記列スル所ノ第一ヨリ第四マテノ順序ニ從ヒ之ヲ加減シテ其適用スヘキ刑名ヲ定ムル者トス然

レ在総則中第百九條ニ掲クル從犯ハ正犯ノ刑ニ一
 等ヲ減シ又夕第百十二條ニ掲クル未遂犯ハ已遂犯
 ノ刑ニ一等又ハ二等ヲ減シ其他各本條ニ記載スル
 特別ノ加重即チ因徒逃走ノ罪ニ付第六條第百四
 往來通信ヲ妨害スル罪ニ付第七條官文書ヲ偽造
 フ侵ス罪ニ付第八條及ヒ疾病ヲ証書ヲ偽付
 ル罪ニ付第九條及ヒ疾病ヲ証書ヲ偽付
 造スル罪ニ付第十條及ヒ疾病ヲ証書ヲ偽付
 ノ罪ニ付第十一條及ヒ疾病ヲ証書ヲ偽付
 百三十八條祖父母父母兄弟姊妹ノ罪ニ付
 九條強盜ノ罪ニ付第十條及ヒ疾病ヲ証書ヲ偽付
 七條強盜ノ罪ニ付第十一條及ヒ疾病ヲ証書ヲ偽付
 患ノ關及スル罪ニ付第十二條及ヒ疾病ヲ証書ヲ偽付
 藥ヲ製造スル罪ニ付第十三條及ヒ疾病ヲ証書ヲ偽付
 信ヲ妨害スル罪ニ付第十四條及ヒ疾病ヲ証書ヲ偽付
 ハ罪ニ付第十五條及ヒ疾病ヲ証書ヲ偽付
 スル罪ニ付第十六條及ヒ疾病ヲ証書ヲ偽付
 八條強盜ノ罪ニ付第十七條及ヒ疾病ヲ証書ヲ偽付
 付ル罪ニ付第十八條及ヒ疾病ヲ証書ヲ偽付
 八條強盜ノ罪ニ付第十九條及ヒ疾病ヲ証書ヲ偽付
 製造規則ニ付第二十條及ヒ疾病ヲ証書ヲ偽付
 ノ罪ニ付第二十一條及ヒ疾病ヲ証書ヲ偽付
 取誘拐スル罪ニ付第二十二條及ヒ疾病ヲ証書ヲ偽付
 ノ如キハ其順序ニ拘ハラス先ツ之ヲ加減シ其加減
 シタル者ヲ以テ本刑ト為シ而シテ後チ本條ニ記列

第百三十八條祖父母父母兄弟姊妹ノ罪ニ付
 九條強盜ノ罪ニ付第十條及ヒ疾病ヲ証書ヲ偽付
 七條強盜ノ罪ニ付第十一條及ヒ疾病ヲ証書ヲ偽付
 患ノ關及スル罪ニ付第十二條及ヒ疾病ヲ証書ヲ偽付
 藥ヲ製造スル罪ニ付第十三條及ヒ疾病ヲ証書ヲ偽付
 信ヲ妨害スル罪ニ付第十四條及ヒ疾病ヲ証書ヲ偽付
 ハ罪ニ付第十五條及ヒ疾病ヲ証書ヲ偽付
 スル罪ニ付第十六條及ヒ疾病ヲ証書ヲ偽付
 八條強盜ノ罪ニ付第十七條及ヒ疾病ヲ証書ヲ偽付
 付ル罪ニ付第十八條及ヒ疾病ヲ証書ヲ偽付
 八條強盜ノ罪ニ付第十九條及ヒ疾病ヲ証書ヲ偽付
 製造規則ニ付第二十條及ヒ疾病ヲ証書ヲ偽付
 ノ罪ニ付第二十一條及ヒ疾病ヲ証書ヲ偽付
 取誘拐スル罪ニ付第二十二條及ヒ疾病ヲ証書ヲ偽付
 ノ如キハ其順序ニ拘ハラス先ツ之ヲ加減シ其加減
 シタル者ヲ以テ本刑ト為シ而シテ後チ本條ニ記列

スル所ノ順序ニ從テ加減スヘキ者トス例ヘハ爰ニ
甲乙二人兇器ヲ携帯シテ人ノ家宅ニ侵入シテ強盜
ヲナスニ事主之ヲ抗拒シ遂ニ財ヲ得スシテ逃走ス
而シテ之カ從犯タル丙者アリ事未タ發覺セサル前
ニ於テ官ニ自首ス然ルニ丙ハ己ニ初犯重罪ノ刑ニ
處セラレ年齡未タ二十歳ニ滿タス今丙ノ罪ヲ處斷
スルニ強盜ノ罪ハ第百七十八條ニ照シ輕懲役二
人以上ニシテ兇器ヲ携帯スルヲ以テ第百八十九
條ニ照シ特別ノ加重ヲナシ二等ヲ加ヘ有期徒刑未
遂犯ニ條ルヲ以テ一等ヲ減シ從犯ナルヲ以テ又

一等ヲ減シ輕懲役ヲ以テ其本刑ト為シ更ニ此條ニ
記列スル順序ニ從ヒ再犯ヲ以テ一等ヲ加ヘ重懲役
二十歳未滿ニ因リ其罪ヲ宥恕シテ一等ヲ減シ輕懲
役自首スルヲ以テ又タ一等ヲ減シ第六十九條ニ據
リ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ降シ仍ホ其情狀ヲ
酌量シ一等ヲ減シ一年六月以上三年九月以下ノ重
禁錮ニ處スルノ類是ナリ
抑モ本條ニ加減ノ順序ヲ一定シ先ツ再犯加重ヲ為
シ後ニ宥恕自首酌量ノ減輕ヲ為ス所以ハ蓋シ各裁
判官ノ意見ニ任シテ加重減輕セシムルキハ實際上

其處斷ノ不同アルノミナラス加減ノ前後ニ因リ大ニ犯人ノ幸不幸ヲ生スルヲ以テナリ何トナレハ加重ヲ先ニシテ減輕ヲ後ニスレハ犯人ノ幸トナリ減輕ヲ先ニシテ加重ヲ後ニスレハ犯人ノ不幸トナルノ患アレハナリ例ヘハ爰ニ無期徒刑ニ該ル者アラシニ本條ノ順序ニ據ルハ先ツ再犯加重ヲ為スモ加ヘテ死刑ニ入ルヲ得サルノ原則ナレハ仍ホ無期徒刑ニ止ル而メ後チ減輕スレハ有期徒刑トナル然ルニ之ニ反シテ先ツ減輕スレハ一等ヲ減シテ有期徒刑トナリ而シテ後チ加重スレハ復ヒ無期徒刑ト

ナリ刑ニ輕重ノ差ヲ生ス輕罪及ヒ違警罪ノ刑ノ極度ニ於テ加減スルモ亦タ同一ナリトス故ニ犯人ヲシテ加減ノ前後ニ因リ幸不幸ヲ受クルヲナカラシムル為メ本條ニ豫シメ其順序ヲ定メ以テ刑ノ權衡ヲ得セシムル者トス

又タ從犯及ヒ未遂犯其他各本條ニ記載スル特別ノ加重減輕ハ其加減シタル者ヲ以テ本刑ト為ス所以ハ其加減シタル所ノ者ハ猶ホ其罪ニ就キ固定シタル本刑ノ如ク即チ他ノ各條ニ記載スル本刑ト同一ノ性質ヲ有ス然レモ再犯加重宥恕自首及ヒ酌量ノ

減輕ニ因リ加減シタル者ノ如キハ元來其罪ニ就キ
已ニ固定シタル所ノ本刑ヲ特ニ他ノ情狀即チ初度
ノ犯罪或ハ年齢ノ勢力或ハ自首ノ利益或ハ事情ノ
原諒ニ因リ其刑ヲ變更セシムル者ナレハ本刑トハ
自カラ其性質異ナル者トス故ニ本條此區別ヲ為ス
第七章 數罪俱發

〔註〕本章ハ未タ判決ヲ經サル數個ノ犯罪一時ニ
發覺シタル時ノ處分ヲ示ス

第百條

重罪輕罪ヲ犯シ未タ判決ヲ經スニ罪以上俱發シタル

時ハ一ノ重キニ從テ處斷ス

重罪ノ刑ハ刑期ノ長キ者ヲ以テ重ト爲シ刑期ノ等シ
キ者ハ定役アル者ヲ以テ重ト爲ス

輕罪ノ刑ハ其所犯情狀最重キ者ニ從テ處斷ス

〔註〕本條ハ重輕罪ノ數罪俱發ノ例ヲ示ス者ニシテ凡ソ
數個ノ重罪又ハ輕罪ヲ犯シ未タ判決ヲ經スシテ一
時ニ發覺シタル片ハ各個ノ犯罪ニ其刑ヲ科セス唯
其内一ノ重キ刑ヲ科スルニ止リ輕キ者ハ自カラ消
滅ス蓋シ第一項ハ刑ヲ併科セサルノ原則ヲ定ムル
者トス

第二項ハ第一項ノ原則ニ基キ數個ノ重罪俱ニ發シタル時其刑ヲ併科セサルノ適用法ヲ定ム即チ重罪ノ刑中有期刑ニ該ル罪二罪以上俱ニ發スルキハ國事犯ト常事犯トヲ問ハス其刑期ノ長キ者ヲ以テ重ト為ス例ヘハ輕禁獄ト重懲役ト俱發スレハ一ノ重懲役ヲ科シ重禁獄ト有期流刑ト俱發スレハ一ノ有期流刑ヲ科スル類是レナリ又々數個ノ刑其期限ヲ等フスルキハ定後アル者ヲ以テ重ト為ス例ヘハ重禁獄ト重懲役ト俱發スルキハ一ノ重懲役ヲ科スル類是レナリ但シ數個ノ刑其期限ヲ等フシ且ツ均

シク定後ニ服シ又ハ定後ニ服セサル場合ニ於テモ止々其内一二從テ刑ヲ科ス又々重罪刑中無期刑ニ該ル者二罪以上俱ニ發シタル時即チ死刑ト無期徒刑ト俱ニ發シタルキハ一ノ死刑ヲ科シ無期徒刑ト無期流刑ト俱ニ發シタルキハ二刑中無期徒刑ハ定後ニ服スルヲ以テ重トナシ一ノ無期徒刑ヲ科ス是レ本條ニ明文ナシト雖モ刑ハ併科セサルノ原則ニ基キ一二從フテ科スル論ヲ竝々サルナリ第三項ハ數個ノ輕罪俱ニ發シタル時其刑ヲ併科セサルノ適用法ヲ定ム輕罪ノ刑ハ重罪ノ刑ノ如ク其

刑ニ等級ナク止々禁錮ト罰金ノ別アルノミ而シテ
 此兩刑ハ元ト輕重ナク同等ノ刑トス且ツ其刑期金
 額ニ至テモ法律上ニ於テ禁錮ハ十一日以上五年以
 下罰金ハ二圓以上ヲ以テ定限ト為スト雖モ仍ホ各
 本條ニ於テ刑期ノ長短金額ノ多寡ヲ區別スルヲ以
 テ重罪ノ刑ノ如ク均一ナラサレハ刑期ノ長短定役
 ノ有無ニ因リ豫シメ刑ノ輕重ヲ定メ難シ例ヘハ爰
 ニ犯人アリ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ該ル竊盜
 罪第三百六十
六條見合ト一年以上三年以下ノ重禁錮ニ該ル
 貨幣ヲ偽造スル罪第二百八十五
條第二項ト俱發スル者アラン

ニ之ヲ比較スルニ一ハ其短期ニ輕クシテ長期ハ重
 シ一ハ其短期ニ重クシテ長期ハ輕シ或ハ禁錮ニ該
 ル罪ト罰金ニ該ル罪ト俱發スル者アランニ其之ヲ
 孰ヲ重トシ孰レヲ輕シトスルヲ得ス故ニ輕罪ノ
 刑ハ刑期ノ長短定役ノ有無禁錮ノ輕重罰金ノ多寡
 ニ拘ハラズ止々其所犯情狀ノ重キ者ニ從フテ刑ヲ
 科スルヲ法トシ專ラ裁判官ノ判定ニ任ス
 抑モ刑ヲ併科セサル所以ハ法ノ嚴酷ニ過クル恐レ
 アルノミナラス各別ニ刑ヲ科スルハ到底行ハレ難
 キトアルヲ以テナリ若シ數罪俱發スル場合各別ニ

刑ヲ科スル片ハ其刑期數十年ノ久シキニ及ヒ犯人
生涯ノ自由ヲ剝奪シ或ハ其金額數千万圓ノ多キニ
及ヒ巨大ノ家産モ忽チ蕩盡スルニ至ル加之ナラス
數罪俱發ハ再犯ト異ニシテ未タ判決ヲ經サル罪ナ
レハ犯人數回罪ヲ犯スモ未タ法律上ノ責罰ヲ受ケ
シ者ニアラスシテ畢竟罪人ハ初度罪ヲ犯スモ其刑
ヲ免カルヲ以テ遂ニ其罪ヲ犯スニ慣レ再三罪ヲ犯
スニ至リシナリ是レ社會ニ於テモ其過チナシトセ
ス何トナレハ社會ハ其犯罪ヲ搜索シ之ヲ懲戒スル
ノ責任ヲ怠リタルニ因レハナリ然ルニ數罪俱發ス

ルニ至リ獨リ其責ヲ犯人ニ歸シ各別之ニ刑ヲ科ス
ルハ不妥當ノ法ト云ハサルヲ得ス又タ死刑若クハ無
期徒流刑ノ如キハ之ヲ併セ科セント欲スルモ能ハ
サル者ナリ故ニ數罪中一ノ重キニ從テ之ヲ處斷ス
ル者トス

第百一條

違警罪二罪以上俱ニ發シタル時ハ各其刑ヲ科ス若シ
重罪又ハ輕罪ト俱ニ發シタル時ハ一ノ重キニ從テ
註本條ハ數個ノ違警罪ヲ犯シ未タ判決ヲ經スシテ一
時ニ發覺シタル時ノ例ヲ示ス者ニシテ違警罪二罪

以上俱ニ發シタル場合ニ於テハ重罪輕罪ノ如ク併科セサル原則ニ因リ一ノ重キニ從フテ處斷スルノ例ヲ用ヒス各別ニ其刑ヲ併セ科ス何トナレハ前條已ニ説明スル如ク重罪輕罪犯ニ其刑ヲ併セ科スル片ハ嚴酷ニ過キ不妥當ノ結果ヲ生スルト雖_レ違警罪ハ其刑最モ輕キ者ナレハ各別ニ之カ刑ヲ科シ拘留ノ刑期料料ノ金額ヲ合算スルモ決シテ嚴酷ニ過キ不妥當ノ結果ヲ生スルノ患ナシ且ツ此罪ハ警察上ノ取締ニ關スル犯罪ナレハ若シ重輕罪ノ如ク之カ刑ヲ各別ニ科セサル時ハ犯人其罰ノ輕キヲ見テ警戒

ヲ加ヘス疎忽怠慢シテ屢之ヲ犯スニ至リ或ハ不正ノ利潤ヲ得ン為メ故サラニ之ヲ犯スノ弊ヲ生ス例ヘハ賣淫ヲ為シ又ハ其媒合容止スル者第四百二十條第五項又ハ不熟ノ菓物腐敗シタル飲食物ヲ販賣スル者第四百二十六條第三項或ハ官許ヲ得シテ劇場其他觀物場ヲ開キ及ヒ其規則ニ違背スル者ノ如キ此等ノ者ハ其刑ノ輕キヲ奇貨トシ其罰ヲ意トセス唯利ヲ是レ謀リ故サラニ數罪ヲ犯スニ至リ遂ニ刑ノ効力ヲ失スルノ恐レアリ是レ各別ニ其刑ヲ科シ一ノ重キニ從ハサル所以ナリ然レモ重罪又ハ輕罪ト俱ニ發シタル

其ハ前條併科セサルノ原則ニ基キ一ノ重罪又ハ輕罪ノ重キニ從テ處斷ス

第百二條

一罪前ニ發シ已ニ判決ヲ經テ餘罪後ニ發シ其輕ク若クハ等シキ者ハ之ヲ論セス其重キ者ハ更ニ之ヲ論シ前發ノ刑ヲ以テ後發ノ刑キ通算ス但前發ノ刑罰金料ニ該リ已ニ納完シタル者ハ第二十七條ノ例ニ照シ折算シテ後發ノ刑期ニ通算ス
若シ前發ノ罪ヲ判決スル時未タ發セサル罪再犯ノ罪ト俱ニ發シタル者ハ其再犯ト比較シ一ノ重キニ從ヒ

前發ノ刑ヲ通算セス

〔註〕凡ソ數罪俱發ニ二個ノ場合アリ其一數罪ヲ犯シ未タ

判決ヲ經サル前一時俱ニ發シタル場合即チ前二條ニ記載スル所是ナリ其二數罪ヲ犯シ一罪前ニ發シ已ニ判決ヲ經テ餘罪後ニ發シタル場合即チ本條ニ記載スル所是ナリ而シテ本條又タ二個ノ區別ヲナス其一數罪ヲ犯シ一罪前ニ發シ已ニ判決ヲ經テ餘罪ノミ後ニ發シタル場合即チ第一項是レナリ其二數罪ヲ犯シ一罪前ニ發シ已ニ判決ヲ經タル後餘罪ト再犯罪ト併發シタル場合即チ第二項是ナリ

第一項ノ場合ニ於テハ後發ノ罪已ニ判決ヲ經タル
前發ノ罪ヨリ輕ク若クハ等シキ者ハ併科セス一ノ
重キニ從フノ原則ニ基キ其罪ヲ論セス例ヘハ重懲
役ト輕懲役トニ該ルヘキ罪ヲ犯シ前ニ重懲役ニ該
ル罪發覺シ已ニ判決ヲ經タル後輕懲役ニ該ル罪發
覺シタルキハ則チ前發ノ罪重クシテ後發ノ罪輕シ
又タ重懲役ニ該ル罪二個以上ヲ犯シ其一罪前ニ發
覺シ已ニ判決ヲ經タル後チ他ノ重懲役ニ該ル罪發
覺スルモ前發後發共ニ等シ故ニ其罪ヲ論セス蓋シ
之ヲ論セストハ其罪ヲ置テ問ハサルノ謂ニ非ス必

ス法式ニ據リ一々之ヲ審判シテ唯タ其刑ヲ科セザ
ルノミ何トナレハ審判ヲ為サ、レハ社會ニ於テ其
犯罪ハ何人ニ其責ヲ負シメタル者ナルヤヲ知ルニ
由ナキノミナラス又タ其罪ノ輕重ヲ知ルヲ得ス又
タ或ハ他ノ無辜者ニ其責ヲ負シムルヲナキヲ保シ
難ケレハナリ然レモ後發ノ罪已ニ判決ヲ經タル前
發ノ罪ヨリ重キ者ハ更ニ審判ノ上其罪ヲ論シ改メ
テ後發ノ刑ヲ科ス而シテ前發ノ刑ニ因リ已ニ經過
シタル刑期若クハ納完シタル罰金ハ後發ノ刑期若
クハ金額ニ通算シ剩餘ノ刑期金額ヲ科ス例ヘハ有

期流刑十五年ニ該ルヘキ罪ト重懲役九年ニ該ルヘキ罪ヲ犯シ前ニ重懲役ニ該ル罪發覺シ已ニ判決ヲ經テ五年ヲ經過シタル後有期流刑ニ該ル罪發覺シタルキハ則チ後發ノ罪重クシテ前發ノ罪輕シ故ニ更ニ其罪ヲ論シ已ニ役過シタル五年ヲ後發ノ刑期ニ通算シ改テ殘ル十年ノ有期流刑ニ處ス又夕前發後發共ニ罰金ノ刑ニ該ルヘキ罪ニシテ後發ノ金額百圓ニシテ前發ノ金額五十圓ナルキハ則チ後發ノ刑重ク前發ノ刑輕シ故ニ更ニ其罪ヲ論シ已ニ納完シタル五十圓ヲ後發ノ金數ニ通算シ改メテ殘ル五

十圓ヲ科スル類是レ亦タ一ノ重キニ從テ刑ヲ科スルノ原則ニ基クモノナリ

但以下ハ已ニ判決ヲ經タル前發ノ罪罰金若クハ科料ニ該ル者ニシテ既ニ納完シタル後チ實決ノ刑即チ自由ヲ停止スルノ刑ニ該ルヘキ罪發覺シタル時ノ處分法ヲ示ス者ニシテ此場合ニ於テハ更ニ其罪ヲ論シ第二十七條ノ例ニ照シ前發ノ金額一圓ヲ一日ニ折算シ後發ノ刑期ニ通算シ改メテ殘ル刑期ヲ科ス例ヘハ罰金四十圓ノ刑ニ該ルヘキ罪ト重禁錮十ヶ月ニ該ルヘキ罪ヲ犯シ前ニ罰金ニ該ル罪發覺

刑罰法 第三十條
シ已ニ判決ヲ經テ其金額ヲ納完シタル後重禁錮ニ
該ルヘキ罪發覺シタルハ罰金四十圓ヲ四十日ニ
折算シ後發ノ刑期ニ通算シ改メテ殘ルハケ月ト二
十日ノ重禁錮ニ處スル類故ニ但シ以下ハ凡テ後發
ノ刑前發ノ刑ヨリ重キ者ナルヲ云フ
第二項ハ數個ノ罪ヲ犯シ一罪前ニ發覺シ其罪ヲ判
決スル時餘罪未タ發覺セシテ已ニ刑ニ處セラレ
タル後再ヒ罪ヲ犯シタルニ因リ再犯ノ罪ヲ判決ス
ル時ニ方リ餘罪俱ニ發覺シタル時ノ處分法ヲ示ス
此場合ニ於テハ前項ノ如ク已ニ判決シタル前發ノ

罪ト比較セズ再犯罪ト比較シ第百條第百一條ノ例
ニ照シ一ノ重キニ從テ處斷シ前發ノ刑期若クハ金
額ト通算セスシテ更ニ其刑期金額ヲ科ス例ヘハ重
懲役ニ該ルヘキ罪ト輕懲役ニ該ルヘキ罪ヲ犯シタ
ル者前ニ輕懲役ニ該ルヘキ罪ノミ發覺シ已ニ判決
ヲ經テ其刑ニ處セラレタル後新ニ重懲役ニ該ルヘ
キ罪ヲ犯シタルニ因リ其罪ヲ判決スル際ニ方リ前
發ノ罪ヲ判決スル片未タ發セサル重懲役ニ該ルヘ
キ罪發覺シタル片新ニ犯シタル重懲役ハ再犯ニ條
ルヲ以テ一等ヲ加ヘ有期徒刑ト為シ即チ此再犯ノ

罪ト發覺シタル餘罪トヲ比較シ一ノ重キ有期徒刑ニ處シ而シテ前發ノ刑ト通算セズ若シ前發ノ刑期限内ニ條ル時ハ第九十五條ニ定ムル所ノ順序ニ從ヒ其刑ヲ執行ス

第百三條

數罪俱ニ發シ一ノ重キニ從フ時ト雖其沒収及ヒ徵償ノ處分ハ各本法ニ從フ

註本條ハ數罪俱發スル時沒収及ヒ徵償ノ處分法ヲ示ス者ニシテ二罪以上俱發スル時ハ前數條ノ例ニ照シ一ノ重キニ從テ其罪ヲ論スト雖其沒収スヘキ物

品及ヒ裁判費用贓物ノ還給損害ノ賠償等徵償スヘキ者アル片ハ各本條即チ沒収處分ニ付テハ第四十三條徵償處分ニ付テハ第四十五條以下ニ定ムル所ノ法則ニ從フ者トス蓋シ沒収モ亦夕一ノ刑ナリ然ルニ併科セサルノ原則ニ由ラスシテ各別ニ處分スル所以ハ元來沒収ハ他ノ主刑及ヒ附加刑ト其性質ヲ異ニシテ其物品ハ或ハ應禁物ニ條リ又ハ之ヲ沒収セサル片ハ社會ノ危害ヲナス者ナレハ如何ナル場合ト雖其之ヲ所有セシム可カラサル物件タリ又タ裁判費用贓物ノ還給損害ノ賠償ハ民事ニ關スル

者トレハ固ヨリ之ヲ微償スルヲ得ルハ論ヲ竣タス
故ニ其刑ハ一ノ重キニ從フト各別ニ科スルトヲ問
ハス又々重罪輕罪違警罪ヲ論セス沒収及ヒ微償ノ
處分ハ各本法ヲ盡スモノトス

第八章 數人共犯

〔註〕數人共犯トハ二人以上連合同意シテ共ニ罪ヲ
犯スヲ云フ共犯ニ二種ノ別アリ正犯從犯是レ
ナリ本章此二種ノ區別ニ因リ分テ二節ト為ス
第一節 正犯

〔註〕此節ハ正犯ノ性質及ヒ其處分ヲ定ムル者ニ

シテ正犯トハ現ニ即チ直接罪ヲ犯タル者ト現
ニ罪ヲ犯サスト雖他人ヲ教唆シテ罪ヲ犯サ
シメタル者ヲ云フ

第四百四條

二人以上現ニ罪ヲ犯シタル者ハ皆正犯ト爲シ各自ニ
其刑ヲ科ス

〔註〕凡ソ正犯トシテ罰スヘキ者ハ其造意者タルト否ト
ヲ分タス二人以上連合同意シテ現ニ其罪ヲ犯シタ
ル者ナルヲ要ス而シテ之ヲ罰スルニハ各人ノ所爲
ニ於テ其情狀多少ノ差等アリト雖モ之カ區別ヲ爲

刑法講義 卷之三
サス各自ニ同一ノ刑ヲ科スル者トス何トナレハ共
同シテ其罪ヲ遂ケタルヲ以テ恰モ各人一個ノ罪ヲ
犯シタル者ト着做セハナリ例へハ甲乙ノ二人丙ノ
發意ニ同シ相共ニ強盜ヲ為スニ甲ハ家人ヲ捕縛シ
乙ハ貨財ヲ盜取シ丙ハ之ヲ運搬スル如キ皆ナ正犯
ト為シ各自ニ其本刑即チ第三百七十八條ニ照シ輕
懲役ノ刑ニ處スル類是ナリ

然レテ連合同意スルト雖_レ臨時其犯罪ヲ異ニスル
者ハ各別ニ之ヲ處分セサル可カラサル者アリ例へ
ハ甲乙丙相共ニ謀リ竊盜ヲ為サントシテ人家ニ侵

入セシニ甲ハ直チニ物品ヲ竊取シ去リ乙ハ家女ヲ
強姦シ丙ハ財ヲ得テ逃去ルノ際家主ノ覺知スルヲ
見テ暴行脅迫ヲ為シ互ニ其情ヲ知ラサル時ノ如キ
是ナリ又タ現ニ罪ヲ犯スト雖_レ連合同意セスシテ
偶然同時ニ同所ニ於テ罪ヲ犯ス者ノ如キハ之ヲ共
犯トシテ各自ニ其刑ヲ科スヘカラス其他内亂ニ關
スル罪兇徒聚衆ノ罪及_チ第三百五條第三百六條等ノ
如キ二人以上共ニ罪ヲ犯スト雖_レ正犯ト為サス其
處分法ヲ異スル者ハ格別ナリトス又_チ第三百四十五
條第三百七十一條第三百六十九條第三百七十九條ノ如

キ人ノ多數ニ因リ別ニ其刑ヲ加重スル者ハ各本條ニ從ヒ共ニ加重ノ刑ヲ科スル者トス

第百五條

人ヲ教唆シテ重罪輕罪ヲ犯サシメタル者ハ亦タ正犯ト為ス

註本條ハ犯罪ヲ教唆スル者ヲ正犯トシテ罰スルノ例ヲ示ス者ニシテ人ヲ教唆シテ重罪輕罪ヲ犯サシメタル者ハ現ニ自カラ罪ヲ犯サスト雖氏亦タ正犯ト為シ其刑ヲ科スル者トス
抑モ教唆者ヲ正犯ト為シ其刑ヲ科スル所以ハ教唆

者ハ即チ首謀者ニシテ身自ラ行ハスト雖氏他人ノ未タ罪ヲ犯スノ惡意ナキ者ヲ挑撥シ或ハ其惡意ノ未タ決セサル者ヲ助成シテ決セシメ之ヲ犯スニ至ラシムル者ナレハ其情惡ムヘク其罪輕カラス自ラ現ニ罪ヲ犯シタル者ト異ナル所ナキヲ以テナリ唯其犯罪有形ニ屬スルト無形ニ屬スルトノ別アルノミ而シテ此條犯サシメタル者トアレハ假令ヒ之ヲ教唆スルモ未タ其罪ヲ犯スニ至ラサル片ハ之ヲ正犯トシテ罰スヘカラス故ニ教唆者ヲ罰スルニハ其教唆ニ因リ犯人ヲシテ犯罪ヲ為スノ心ヲ決セシメ

テ遂ニ其事ヲ實行シタルキナルヲ要ス
凡ソ人ヲ教唆スルノ方法ニ至テハ或ハ人ヲ脅迫シ
或ハ金錢財物ヲ贈與シ或ハ威權ヲ以テシ或ハ人ト
五ニ結約シ或ハ人ヲ欺罔スル等其方法千種万狀法
律上豫シメ列舉シ得ヘキ者ニ非ス故ニ本條之ヲ記
セス

第百六條

正犯ノ身分ニ因リ別ニ刑ヲ加重ス可キ時ハ他ノ正犯
從犯及ヒ教唆者ニ及ホスヲ得ス

註本條ハ數人連合同意シテ共ニ罪ヲ犯シタル者ト雖

モ正犯ノ身分ニ因リ特別ニ刑ヲ加重スヘキ時ハ其
者ノ一身ニ止リ他ノ正犯從犯及ヒ教唆者ニハ加重
セサルヲ云フ例ヘハ子孫他人ト同謀シ或ハ教唆セ
ラレテ其父母ヲ毆打シタルハ其子孫ハ祖父母父母
ヲ毆打シタル罪ニ因リ凡人ノ刑ニ二等ヲ加重スル
ト雖凡他人ハ凡人毆打創傷ノ罪ヲ以テ論ス是レ其
身分子孫タルヲ以テ之ヲ加重シ他ノ正犯從犯及ヒ
教唆者ニ及ホスヲ得サル者ナリ

第百七條

犯人ノ多數ニ因リ刑ヲ加重ス可キ時ハ教唆者ヲ算入

シテ多數ト為スヲ得ス

註 第百五條ニ定ムル如ク教唆者モ亦夕正犯ト為シ同
 一ノ刑ヲ科スト雖正犯人ノ多數ニ因リ刑ヲ加重ス
 可キ時即チ第百四十五條第百七十七條ノ第四第三
 百六十九條及ヒ第三百九十九條等ノ場合ニ於テハ
 現ニ罪ヲ行フ正犯ニ算入シテ多數ト為シ加重スル
 ヲ得サル者トス何トナレハ元來犯人ノ多數ニ因
 リ刑ヲ加重スル所以ハ數人ニシテ罪ヲ犯スキハ其
 事ヲ為スニ容易ニシテ而シテ被害者ニ於テハ之ヲ
 防クヲ難ク隨テ社會上ノ害大ナルヲ以テナリ然ル

ニ教唆者ノ如キハ其情ノ惡ムヘク其罪ノ輕カラサ
 ルヲ以テ正犯ト為スモ間接ノ犯罪ニシテ直接即チ
 現ニ罪ヲ犯ス者ニ非サレハ假令教唆者アルモ犯罪
 ノ勢力及ヒ防禦ノ難易ニ影響ヲ及ホス所ナシ故ニ
 本條其加重セサルヲ明示ス若シ此條ノ明文ナク
 ンハ一人ニシテ竊盜ヲ為スモ教唆者アレハ第三百
 六十九條ニ照シ一等ヲ加重セサル可カラス是レ大
 ニ犯人ノ多數ニ因リ刑ヲ加重スルノ法意ニ及スル
 者ト云ハサルヲ得ス

第百八條

事ヲ指定シテ犯罪ヲ教唆スルニ當リ犯人教唆ニ乘シ其指定シタル以外ノ罪ヲ犯シ又ハ其現ニ行フ所ノ方法教唆者ノ指示シタル所ト殊ナル時ハ左ノ例ニ照シテ教唆者ヲ處斷ス

一 所犯教唆シタル罪ヨリ重キ時ハ止夕其指定シタル罪ニ從テ刑ヲ科ス

二 所犯教唆シタル罪ヨリ輕キ時ハ現ニ行フ所ノ罪ニ從テ刑ヲ科ス

註 本條ハ教唆者ノ罪ヲ罰スル變例ニシテ犯人ノ所為教唆者ノ指定シタルヨリ以外ノ事又ハ其指示シタ

ル方法ト殊ニシテ其罪教唆シタル罪ヨリ輕重アル時ノ處斷法ヲ示ス

事ヲ指定シテ犯罪ヲ教唆スルトハ例ヘハ其ヲ輕罪ニ陷ラシムル為メ誣告スヘシ或ハ其ノ家ニ入り竊盜ヲ為スヘシト其所為ヲ指定スルヲ云フ而シテ教唆ニ乘シ其指定シタル以外ノ罪ヲ犯ストハ例ヘハ人ヲ罵詈訾弄スヘシト教唆シタルニ犯人教唆ニ乘シ直チニ毆打創傷シ或ハ人ヲ制縛シテ拷責スヘシト教唆シタルニ犯人教唆ニ乘シ之ヲ故殺スルノ類又夕犯人教唆ニ乘シ其現ニ行フ所ノ方法教唆者ノ

刑法講義 卷之二 六十八 一編八章一節

指定シタル所ト殊ナル時トハ竊盜ヲ為スヘシト教唆シタルニ強盜ヲ為シ某ノ家屋ヲ破壊スヘシト教唆シタルニ火ヲ放テ其家屋ヲ燒燬スルノ類是レナリ

此等ノ場合ニ於テ犯人ノ所為其教唆シタル罪ヨリ重キ時ハ教唆者ハ犯人ト同シク論セス止テ其指定シタル罪ニ從テ刑ヲ科シ又テ犯人ノ所為其教唆シタル罪ヨリ輕キ時ハ教唆者ハ其指定シタル罪ニ從テ刑ヲ科セス犯人ト同シク論シ現ニ犯シタル罪ニ從ヒ其刑ニ處ス本條斯ク定ムル所以ハ蓋シ犯

人教唆セラレタル以外ノ事ヲ為シタルハ自己ノ存意ニ出テタル者ニシテ教唆者ノ意ニ非ラサル者ナリ然ルニ若シ其罪ヲ以テ教唆者ヲ罰スル者トセハ之ヲ過酷ノ法ト云ハサルヲ得ス故ニ其罪重キ時ハ其指定シタル所ニ止リ其罪輕キ時ハ現ニ行フ罪ニ從フ者トス

第二節 從犯

〔註〕本節ハ從犯ノ性質及ヒ其處分法ヲ定ム從犯

トハ正犯ニ附從スル罪犯ニシテ即チ現ニ罪ヲ犯サス又テ教唆ヲ為シタルニ非ラス間接

ニ在テ正犯ヲ幫助シ犯罪ヲ容易ナラシメタル者ヲ云フ

第百九條

重罪輕罪ヲ犯スルヲ知テ器具ヲ給與シ又ハ誘導指示シ其他豫備ノ所爲ヲ以テ正犯ヲ幫助シ犯罪ヲ容易ナラシメタル者ハ從犯ト爲シ正犯ノ刑ニ一等ヲ減ス但正犯現ニ行フ所ノ罪從犯ノ知ル所ヨリ重キ時ハ止タ其知ル所ノ罪ニ照シ一等ヲ減ス

註凡ソ從犯トシテ罰スヘキ者ハ重罪若クハ輕罪ヲ犯スノ情ヲ知り其犯罪ノ前豫備ノ所爲ヲ以テ現ニ罪

ヲ犯ス正犯ヲ幫助シ犯罪ヲ容易ナラシメタル者ニ限ル此レ間接ニ在テ罪ヲ犯シタル者ナレハ正犯トハ其情狀大ニ異ナル所アルヲ以テ之ヲ罰スルニハ正犯ノ刑ニ一等ヲ減ス

而シテ豫備ノ所爲タル其方法千差萬別法律上一々之ヲ豫記シ得ヘキニ非ラス故ニ器具ヲ給與シ又ハ誘導指示シ其他豫備ノ所爲云々ノ數語ヲ以テ之ヲ示ス器具ヲ給與スルトハ例ヘハ竊盜ヲ爲スノ情ヲ知り門戸牆壁ヲ踰越損壞シ若クハ鎖鑰ヲ開ク爲メ擬子偽鑰其他ノ器具又ハ人ヲ殺害スルノ情ヲ知り

刑罰法 卷之二
兇器毒藥ヲ正犯ニ給與スルノ類誘導指示スルトハ
例ヘハ竊盜ヲ為スノ情ヲ知り豫メ其家屋ノ模様家
人不在ノ時日若クハ貨財ノ所在又ハ人ヲ殺害スル
ノ情ヲ知り被害人ノ舉動ヲ密報告知スルノ類ヲ云
フ是レ其犯罪ヲ教唆スル者トハ自ラ異ナリ蓋シ教
唆トハ其犯罪ヲ為スノ念ヲ鼓動勸誘シテ決心セシ
ムルヲ云ヒ誘導指示トハ決心後犯罪ニ着手スルノ
方法ヲ補助スルヲ云フ其他豫備ノ所為トハ種々犯
罪ヲ容易ナラシムル為メノ所為ヲ概稱スルノ語ナ
リ之ヲ要スルニ從犯ノ所為ハ皆ナ犯罪前ノ事ニ係

ル若シ犯罪中其正犯ヲ幫助シ又ハ犯罪ヲ容易ナラ
シメタル者ハ正犯ト為シテ其罪ヲ論ス又タ犯罪後
ニ關スル所為例ヘハ犯人ヲ藏匿シ若クハ贓物ヲ寄
藏故買スル等ハ別ニ一種ノ罪ト為シ之ヲ罰スル者
トス
本條重罪輕罪ヲ犯スヲ知テ云々是レ最モ注意ヲ要
ス故ニ器具ヲ給與シ又ハ誘導指示スルモ嘗テ其犯
情ヲ知ラサルキハ其罪ヲ問ハス又タ從犯ヲ罰スル
ハ重罪輕罪ニ限リ違警罪ハ從犯ヲ罰セズ何トナレ
ハ違警罪ハ其罪輕小ニシテ且ツ疎忽怠慢ニ出ル者

多キニ因リ唯現ニ罪ヲ犯ス者ヲ罰スルヲ以テ足レ
リトスレハナリ

但以下ハ本條ノ變例ニシテ正犯現ニ行フ所ノ罪從
犯ノ知ル所ヨリ重キ時例ヘハ從犯ハ尋常ノ竊盜ナ
リト思慮シタルモ正犯ハ兇器ヲ携帶シ竊盜ヲ為シ
若クハ臨時暴行脅迫ヲ為シタルカ如キ從犯ハ其知
ル所ノ罪即チ第三百六十六條ノ刑ニ一等ヲ減シ正
犯ハ各本條ニ照シ其刑ニ處スル類是ナリ若シ正犯
現ニ行フ所ノ罪從犯ノ知ル所ノ罪ヨリ輕キ時例ヘ
ハ從犯ハ毒殺ヲ行フヲ知リタルニ正犯ハ唯毆打

創傷ノ罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ該ルヘキ場合ニ於テハ
從犯モ亦タ其罪ニ照シ一等ヲ減スルハ固ヨリ論ヲ
俟タス

第百十條

身分ニ因リ刑ヲ加重ス可キ者從犯ト為ル時ハ其重キ
ニ從テ一等ヲ減ス
正犯ノ身分ニ因リ刑ヲ減免ス可キ時ト雖モ從犯ノ刑
ハ其輕キニ從テ減免スルヲ得ス
〔註〕本條ハ從犯ノ身分ニ因リ特ニ其刑ヲ加重スヘキ
時又ハ正犯ノ身分ニ因リ特ニ其刑ヲ減免ス可キ

時ノ處斷法ヲ示ス

第一項身分ニ因リ刑ヲ加重スヘキ者トハ從犯ノ身
分子孫又ハ官吏タルニ因リ法律上特ニ其刑ヲ加重
スル者ヲ云フ此等ノ者從犯トナリ正犯ヲ幫助シ犯
罪ヲ容易ナラシメタルキハ通常從犯ノ如ク正犯ノ
本刑ニ一等ヲ減セスシテ其重キニ從ヒ從犯ノ受ク
ヘキ本刑即チ加重スル所ノ刑ヨリ一等ヲ減スル者
トス例ヘハ子ニシテ凡人ノ我カ父ヲ毆打創傷シテ
廢疾ニ致シタル者ノ從犯トナルキハ凡人ハ第三百
條ニ照シ重禁錮ノ刑ニ處スルモ子ハ其重キニ從ヒ

即チ第三百六十三條ニ照シ有期徒刑ヨリ一等ヲ減
シ重懲役ニ處スルノ類是レナリ

第二項正犯ノ身分ニ因リ刑ヲ減免スヘキ時トハ正
犯幼年ナルニ因リ其罪ヲ宥恕スルキ又ハ親屬ニ係
ルヲ以テ其罪ヲ論セサル者等ヲ云フ此等ノ者現ニ
罪ヲ犯シ他人其從犯ト為リ正犯ヲ幫助シ犯罪ヲ容
易ナラシメタルキハ正犯ハ減免ヲ與フルモ從犯ハ
其輕キニ從ヒ減免スルヲ得ス仍ホ其受ヘキ通常ノ
本刑ヨリ一等ヲ減スル者トス例ヘハ同居ノ弟其兄
ノ財物ヲ窃取シタルニ他人之カ從犯トナリタル時

ノ如キ第ハ親屬ニ係ルヲ以テ第三百七十七條ニ照シ其罪ヲ論セサルモ從犯ハ通常竊盜ノ罪ニ照シ其本刑ヨリ一等ヲ減スルノ類是レナリ

第九章 未遂犯罪

〔註〕本章ハ未遂犯罪ノ種類及ヒ其處分法ヲ示ス未遂犯罪トハ罪ヲ犯サントシテ未タ其目的ヲ遂ケサル者ヲ云フ凡ソ罪ヲ犯サントシテ未タ其目的ヲ遂ケサル前ニ數種ノ狀態アリ第一發意第二念慮第三決心第四豫備第五已行是ナリ而シテ第一第二第三ノ狀態ハ無形即チ人ノ思想

ニ屬シ第四第五ノ狀態ハ有形即チ人ノ所為ニ屬ス左ニ其區別ニ就テ之ヲ細說セン例ヘハ貧困ノ餘リ忽然他人ノ所有物ヲ盜取セント欲スルノ念ヲ起ス是レ即チ第一ノ場合ナリ已ニ其念ヲ起シテヨリ盜取スルノ企望ヲ計畫ス是レ第二ノ場合ナリ已ニ其企望ヲ計畫シ強盜又ハ竊盜ヲ為サント決心シ其方法ヲ求メ只時機ノ至ルヲ待ツ是レ第三ノ場合ナリ已ニ強盜又ハ竊盜ヲ為スノ念慮決定シテ兇器ヲ購求シ或ハ偽鑰ヲ造リ若クハ其他ノ器械ヲ貯蔵ス是レ第

四ノ場合ナリ已ニ豫備ヲ了リ其兇器ヲ携帯シ
テ人家ニ侵入シ強盜ヲ行ヒ又ハ偽鑰ヲ以テ倉
庫ヲ開キ竊盜ヲ行フト雖氏意外ノ障害若クハ
舛錯ニ因リ未タ其目的ヲ遂ケサル者は是レ第五
ノ場合ナリ以上五個ノ状態中法律ニ於テ之ヲ
罰スヘキモノト罰スヘカラサルモノトノ別ア
リ
第一第二ノ場合ニ於テハ決シテ罰ス可カラサ
ル者トス何トナレハ假令方正謹直ナル人ト雖
氏時トメハ邪惡ノ念ヲ發スルヲナキニ非ス且

ツ發意ノミニテハ未タ道德ヲ損シ社會ヲ害ス
ル所ナシ又タ惡業ヲ為サント欲シ其企望ヲ計
畫スルノミニテハ多少道德ヲ損スル所アリト
雖氏未タ社會ノ害ヲ為スニ至ラス加之ナラス
此二個ノ場合ニ於テハ一旦惡業ヲ為サントノ
念ヲ發シ又ハ其企望ヲ計畫スルモ或ハ本然ノ
良心復ヒ生シ之ヲ制止スルヲアルモ未タ知ル
可ラス之ヲ要スルニ此二個ノ場合ハ其惡念只
タ心裏ニ存スルノミニシテ未タ外面ニ發露セ
サレハ之ヲ證明スルニ由ナキヲ以テ其罪ノ性

質如何ヲ問ハス都テ之ヲ罰セス是レ蓋シ無形ノ事ハ之ヲ罰スルヲ得サルノ主義ナリ若シ外面ノ推測ヲ以テ之ヲ罰スルハ却テ社會ノ安寧ヲ妨ケ許多ノ弊害ヲ醸生スルノミナラス其過ヲ悔ヒ之ヲ改ムルハ良心ヲ妨クルニ至ラシ

第三ノ場合ニ於テモ亦之ヲ罰ス可ラサル者トス何トナレハ決心ヲ為スニ至テハ道德ヲ損スルヲ稍大ナリト雖モ社會ヲ害スルノ點ニ於テハ未タ大ナラス且ツ第一第二ノ主義ト同シ

ク一旦決心スルモ復タ之ヲ制止スルヲナキニアラス又タ其外面ニ發露スルヲモ頗フル稀ナル者ナレハナリ然レモ僅カニ之ヲ罰スルノ場合アリ下條ニ於テ之ヲ説明セン

第四ノ場合ニ於テモ亦タ罰ス可カラサル者トス蓋シ豫備ヲ為スニ至テハ外面ニ發露スル者ナレハ是レヲ第三ノ場合ニ比スルハ道德ヲ損シ社會ヲ害スルヲ兩ナガラ大ニシテ稍危峻ナル場合ニ接近ス然レモ其豫備ノ所為ヲ以テ概シテ犯罪ノ為ニスル者ト認定シ之ヲ罰スル

一ヲ得ス何トナレハ其豫備ハ他ノ正當ナル事
 ノ為ニスルカ未タ知ル可カラサレハナリ例ヘ
 ハ今爰ニ銃砲又ハ毒藥ヲ貯蔵スル者アラシニ
 其銃砲ハ銃獵ニ供スル為メ又タ毒藥ハ蟲害ヲ
 驅除スル為メニ之ヲ貯フルヲ得ヘシ是レ法
 律ニ於テ禁制セサル所ナリ故ニ其外面ノ所為
 ノミヲ以テ直チニ犯罪ノ豫備ヲナス者ト為ス
 可カラサル者トス若シ概シテ之ヲ罰スルハ
 上文ニ説ク所ノ無形ノ事ハ之ヲ罰スルヲ得サ
 ルノ原則ニ戻リ且ツ無辜ノ人ヲ罰スルノ恐レ

アリ然レモ一二之ヲ罰スル例外アリ是レ其所
 為罪ヲ犯スノ豫備タルヲ著明ニシテ且ツ其危
 害ノ大ナル場合ニ限ル仍ホ下條ニ至ツテ説明
 セン

第五ノ場合ニ於テハ一般ニ之ヲ罰ス然レモ已
 遂犯ノ刑ヨリハ之ヲ輕減ス何トナレハ豫備ノ
 所為ヲ了リ已ニ其事ヲ行フ者ナレハ道德ヲ損
 スルヲ愈大ナリト雖モ未タ其目的ヲ遂ケサル
 者ナレハ此ヲ已遂ノ犯罪ニ比スレハ社會ヲ害
 スルノ點ニ於テ自ガラ輕重アルヲ以テナリ

以上説ク所ハ專ラ未遂犯罪ノ理論ニシテ本節ニ於テハ之ヲ分テ三種トス

第一罪ヲ犯サレトテ謀ル者即チ上文第三決心ノ場合是ナリ第百十一條見合

第二犯罪ノ豫備ヲ為スト雖モ未タ其事ヲ行ハサル者即チ上文第四豫備ノ場合是ナリ第百十一條見合

第三已ニ其事ヲ行フト雖モ未タ遂ケサル者即チ上文第五已行ノ場合是ナリ第百十二條見合

第百十一條

罪ヲ犯サンコトヲ謀リ又ハ其豫備ヲ為スト雖モ未タ其事ヲ行ハサル者ハ本條別ニ刑名ヲ記載スルニ非サレハ其刑ヲ科セス

註

本條ハ前ニ説ク未遂犯罪ノ決心及ヒ豫備ニ係ルキノ處分ヲ示ス凡ソ發意及ヒ念慮ノ場合ハ其惡事ノ唯心裏ニ存スルト雖モ未タ外面ニ發露セス且ツ直接ニ道德ヲ損シ社會ヲ害スルコトナケレハ決シテ之ヲ罰スルコトヲ得サルハ已ニ説明セシ所ナリ故ニ此二個ノ場合ハ法章之ヲ掲載セス其決心ト豫備ノ場合ニ於テモ之ヲ罰スルコトナシト雖モ一二ノ罰スヘ

キ者アルヲ以テ特ニ此條ヲ設ケ其區別ヲ示ス蓋シ其惡事ヲ為サント決心スル者即チ罪ヲ犯サント謀ル者ノ如キハ多少其所為ノ外面ニ發露スル者ナキニ非スト雖モ猶未タ隱微ニ屬スル者ナレハ仮令ヒ道德ヲ損スルヲアルモ社會ノ害トスルニ足ラス又タ豫備ヲ為シ其事ヲ行ハサル者ノ如キハ其所為往々外面ニ發露スル者ナレハ道德ヲ損シ社會ヲ害スルヲ大ナリト雖モ其豫備ヲ為シタルノミニテハ果シテ犯罪ノ為ニスル者ナリヤ否ヲ確認スルヲ得ス若シ決心或ハ豫備ヲ以テ人ノ意思ヲ想像シ之ヲ

罰スルキハ則チ無形ノ事ヲ罰スル者ニシテ一罪犯ヲ漏サ、ランカ為メ却テ無辜ノ良民ヲ罪スルノ恐レアリ故ニ此刑法ニ於テハ陰謀及ヒ豫備ニ係ル者ハ之ヲ罰セサルヲ原則トス例ヘハ甲陰カニ乙ト謀リ丙ヲ殺害セント議スル如キ是レ陰謀ナリ殺害セシメ為メ兇器若クハ毒藥ヲ購求スルカ如キ是レ豫備ナリ此レ其事蹟ハ外面ニ發露スルト雖モ他ヨリ之ヲ見ルキハ其陰謀ハ或ハ他事ヲ議シ其豫備ハ自身ヲ防護シ又ハ蟲害等ヲ驅除スル為メニスルカ未タ知ル可ラス犯人モ亦タ其罪ヲ犯ス為メニ非サル

ヲ辨解シ得ルヲ以テナリ
然レ本條別ニ刑名ヲ記載スル者ハ其陰謀又ハ豫
備ニ係ル者ト雖モ之ヲ罰ス即チ國事ニ關スル罪ニ
付キ第百二十五條第百三十三條及ヒ貨幣ヲ偽造ス
スル罪ニ付第百八十六條等ノ場合是ナリ此レ其事
蹟證明シ易ク且ツ社會ノ害ヲ為ス大ナルヲ以テナ
リ何トナレハ内亂外患ニ關スル罪ノ如キハ多衆ノ
黨與相ヒ集會通謀シ或ハ兵器其他軍用ノ器械ヲ購
求スル等其所為タル尋常犯罪ノ陰謀豫備ヲ為ス者
ニ非サルヲ著明ナリ而シテ其目的タル政府ヲ顛覆

シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊亂シ若クハ外國
ニ對シ戰端ヲ開ク等ニシテ實ニ國家ノ安危ニ關ス
故ニ若シ之ヲ輕忽ニ付シ其萌ヲ未然ニ防カサレハ
其害全國ニ及フ又タ貨幣ヲ偽造スルニ至テモ一般
ノ信用ヲ害シ社會ノ公益ヲ妨クル等其禍一ニシテ
足ラス是レ此等ノ罪ハ陰謀豫備ニ係ルモノト雖モ
心ス之ヲ罰スル所以ナリ

第百十二條

罪ヲ犯サントシテ已ニ其事ヲ行フト雖モ犯人意外ノ
障礙若クハ舛錯ニ因リ未タ遂ケサル時ハ已ニ遂ケタ

ル者ノ刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

註本條ハ前ニ説ク所ノ未遂犯ノ已行ニ係ル片ノ處分ヲ示ス已行ノ未遂犯トハ豫備ノ所為ヲ終リ已ニ其事ヲ行ヒ畢リテ始メ半途ニシテ廢スル場合ト已ニ其事ヲ行ヒ畢リテ其効ヲ缺失スル場合ト云フ即チ本條ニ所謂犯人意外ノ障礙若クハ犯人意外ノ舛錯ニ因リ未タ遂ケサル者はナリ
罪ヲ犯サントシテ已ニ其事ヲ行フト雖モ犯人意外ノ障礙ニ因リ未タ遂ケサル時トハ犯人ノ意思ニ關係セサル他ノ情狀ニ因リ其所為ヲ盡ストテ得スシ

テ中止シタル者ヲ云フ例ヘハカヲ以テ人ヲ殺サントスルニ其人ノ防禦シ若クハ他人ノ為メニ阻遏セラレ遂ニ殺ストテ得サル者或ハ竊盜ヲ為サント欲シ人家ニ忍ヒ入り財物ヲ取去ラントスルノ際事主ニ覺知セラレ一物ヲ得スシテ逃カル、者ノ類ヲ云フ

罪ヲ犯サントシテ已ニ其事ヲ行フト雖モ犯人意外ノ舛錯ニ因リ未タ遂ケサル時トハ已ニ其罪ヲ仕遂クヘキ所為ヲ盡スト雖モ犯人ノ意思ニ關係セサル他ノ情狀ニ因リ其目的ヲ達セサル者ヲ云フ例ヘハ

入ヲ毒殺セント欲シ毒藥ヲ飲マシムルニ被害者消
 毒劑ヲ服シ依テ死ヲ免レタル時又々人家ニ忍ヒ入
 リ已ニ財物ヲ竊取シ逃ケ去ルノ際狼狽危懼誤テ其
 財物ヲ事主ノ邸宅内ニ落失シタル類ヲ云フ
 以上二個ノ場合ニ於テハ其所為ノ外面ニ發露シタ
 ル者ナレハ道德ヲ損シ社會ヲ害スル一共ニ大ナリ
 故ニ重罪又ハ輕罪中其罪ノ性質惡ムヘキ者ハ已行
 ノ未遂犯ニ條ルキト雖モ之ヲ罰ス然レモ未タ其目
 的ヲ遂ケサル者ナレハ社會ノ害ヲ為ス點ニ於テハ
 已ニ其目的ヲ遂ケタル者ト同視ス可カラサル所ア

ルヲ以テ其情狀ニ因リ已ニ遂タル者ノ本刑ニ一等
 又ハ二等ヲ輕減ス
 又々理論上ヨリ見レハ舛錯ニ因リ未タ遂ケサル者
 ハ障礙ニ因リ未タ遂ケサル者ニ比スレハ其情稍重
 シトス何トナレハ一ハ其事ヲ行ヒ畢リ其効ヲ缺失
 スル者ニシテ一ハ其事ヲ行ヒ始メ中止スル者ナレ
 ハ道德ヲ損スルノ點ハ同一ナリト雖モ社會ヲ害ス
 ルノ點ニ至テハ自カラ差等アルヲ以テナリ然レモ
 此二ノ者ハ頗ル相類似スル者ナレハ實際ニ於テ其
 情狀或ハ此ヨリ彼レノ重キアリ故ニ法章之カ區

別ヲ為サス止テ裁判官ノ鑑識ニ任シ一等又ハ二等
ヲ減輕シ適宜之ヲ處分セシム

第百十三條

重罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ前條ノ例ニ照
シテ處斷ス

輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ本條別ニ記載
スルニ非サレハ前條ノ例ニ照シテ處斷スルヲ得ス
違警罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ其罪ヲ論セ
ス

註本條ハ罪ノ種類ニ付未遂犯ヲ罰スル者ト罰セサル

者トノ區別ヲ示ス

凡ソ重罪ノ未遂犯ハ其犯狀顯著ニシテ之ヲ証明シ
易ク且ツ社會ニ害ヲ及ス一夫ナルヲ以テ其罪ノ何
タルヲ問ハス前條ノ例ニ照シ悉ク之ヲ罰スル者ト
ス

輕罪ノ未遂犯ハ其犯狀多クハ隱微ニシテ之ヲ証明
スルヲ難シ且ツ社會ニ害ヲ及ス一モ亦タ淺少ナリ
故ニ之ヲ罰セス然レモ其罪ノ性質ニ因リ之ヲ証明
シ易ク且ツ其害ノ稍大ナル者ハ各本條ニ於テ別ニ
其罪ノ罰スヘキ者ヲ定メ前條ノ例ニ照シ處斷スヘ

キ者トス即チ第百四十九條第百五十九條第百七十
條第百七十一條第百六十六條第三百七
十五條及ヒ第百九十七條等ノ場合是ナリ

違警罪ハ罪ノ最モ輕微ナル者ニシテ且ツ之ヲ犯ス
ニ造意ニ出ツルノ少ナケレハ其未タ遂ケサル者ハ
之ヲ証明シ難ク加之ナラス社會ノ害ヲ為スニ至ラ
サル者ナリ故ニ之ヲ罰スルヲ要セス

第十章 親屬例

第百十四條

此刑法ニ於テ親屬ト稱スルハ左ニ記載シタル者ヲ云

7

一 祖父母父母夫妻

二 子孫及ヒ其配偶者

三 兄弟姉妹及ヒ其配偶者

四 兄弟姉妹ノ子及ヒ其配偶者

五 父母ノ兄弟姉妹及ヒ其配偶者

六 父母ノ兄弟姉妹ノ子

七 配偶者ノ祖父母父母

八 配偶者ノ兄弟姉妹及ヒ其配偶者

九 配偶者ノ兄弟姉妹ノ子

十配偶者ノ父母ノ兄弟姉妹

〔註〕本條ハ此刑法中親屬ニ係ル罪ハ第二編以下ノ各本條ニ於テ特別ノ處分法アルヲ以テ其制限ヲ示ス者ナリ即チ此刑法中ニ於テ單ニ親屬ト記載シタル時ハ本條ニ列舉シタル者ヲ總稱ス然レモ第三百七十七條ニ定ムル如ク其稱ヲ明示スル者ハ格別ナリトス

第百十五條

祖父母ト稱スルハ高曾祖父母外祖父母同シ父母ト稱スルハ繼父母嫡母同シ子孫ト稱スルハ庶子曾玄孫外

孫同シ兄弟姉妹ト稱スルハ異父異母ノ兄弟姉妹同シ養子其養家ニ於ケル親屬ノ例ハ實子ニ同シ

〔註〕本條ハ前條ニ掲クル親屬ノ例ヲ補足セル者ニシテ高祖父母外祖父母繼父母嫡母庶子玄孫外孫及ビ養子ノヲ示ス但シ嫡母トハ正妻ノ産ム所ニ非ラサルノ子其正妻ヲ指スノ稱ナリ庶子トハ正妻ノ産ム所ニ非ラサル子ヲ正妻ヨリ指スノ稱ナリトス

176

